

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-149221

(P2012-149221A)

(43) 公開日 平成24年8月9日(2012.8.9)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
C09D 11/00 (2006.01)	C09D 11/00	2C056
B41M 5/00 (2006.01)	B41M 5/00 E	2H186
B41M 5/50 (2006.01)	B41M 5/00 B	4J039
B41M 5/52 (2006.01)	B41J 3/04 1O1Y	
B41J 2/01 (2006.01)		

審査請求 未請求 請求項の数 12 O L (全 39 頁)

(21) 出願番号	特願2011-142333 (P2011-142333)	(71) 出願人	306037311 富士フイルム株式会社 東京都港区西麻布2丁目26番30号
(22) 出願日	平成23年6月27日 (2011.6.27)	(74) 代理人	100115107 弁理士 高松 猛
(31) 優先権主張番号	特願2010-294324 (P2010-294324)	(72) 発明者	藤江 賀彦 神奈川県小田原市扇町2丁目12番1号 富士フイルム株式会社内
(32) 優先日	平成22年12月28日 (2010.12.28)	(72) 発明者	立石 桂一 神奈川県小田原市扇町2丁目12番1号 富士フイルム株式会社内
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)	(72) 発明者	田中 俊春 静岡県富士宮市大中里200番地 富士フイルム株式会社内
		Fターム (参考)	2C056 EA04 EA05 FC01
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 インク組成物、インクジェット記録用インク及びインクジェット記録方法

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】本発明のインク組成物、インクジェット記録用インク及び記録方法は表面張力などのインク物性をコントロールし、受像紙へのインクの浸透性を向上させ、インク滲み及び色移りを防止することができる。さらなる高画質化の点から、印画物の金属様光沢、保存安定性に優れるインク組成物、インクジェット記録用インク及び記録方法を提供する。

【解決手段】少なくとも、第1の色材、及び第2の色材を含有するインク組成物であって、前記第1の色材が、水溶性アゾ系染料であり、前記第2の色材が、複素環式化合物からなる染料であり、前記第2の色材のインク組成物中における含有量(質量%)が、前記第1の色材のインク組成物中における含有量(質量%)に対して、質量比率で、0.001以上1.0以下であり、該インク中の遷移金属イオンの含有量が0.0001mmol/l〜0.1mmol/lであることを特徴とするインク組成物。

【選択図】 なし

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

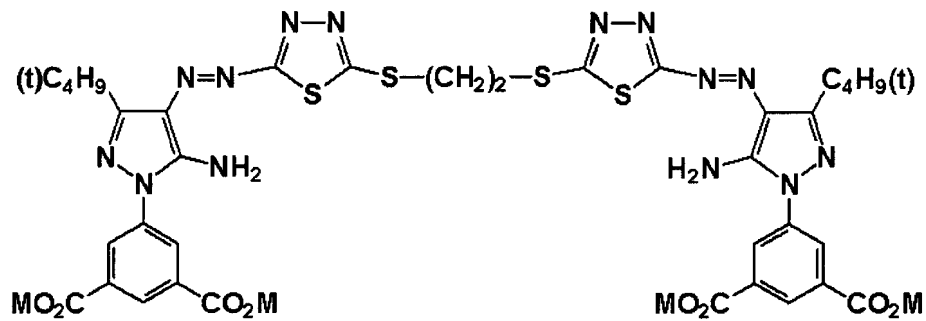
少なくとも、第 1 の色材、及び第 2 の色材を含有するインク組成物であって、

前記第 1 の色材が、下記一般式 (Y) で表される化合物であり、前記第 2 の色材が、下記群 A から選択される少なくとも 1 種の化合物であり、前記第 2 の色材のインク組成物中における含有量 (質量%) が、前記第 1 の色材のインク組成物中における含有量 (質量%) に対して、質量比率で、0.001 以上 1.0 以下であり、該インク中の遷移金属イオンの含有量が $0.0001 \text{ mmol/l} \sim 0.1 \text{ mmol/l}$ であることを特徴とするインク組成物。

一般式 (Y)

【化 1】

10

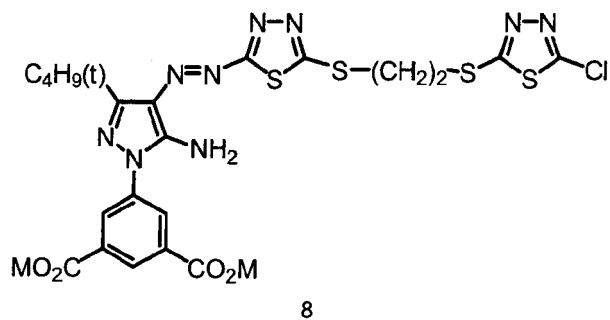
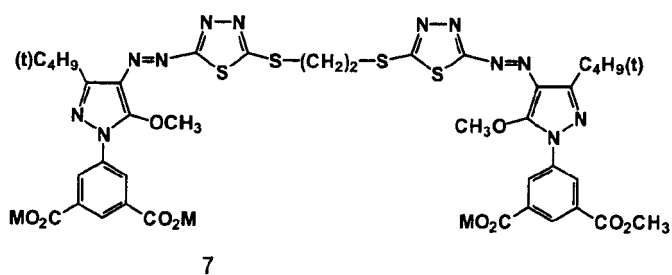
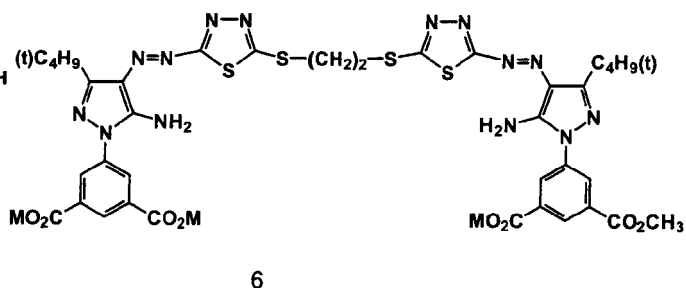
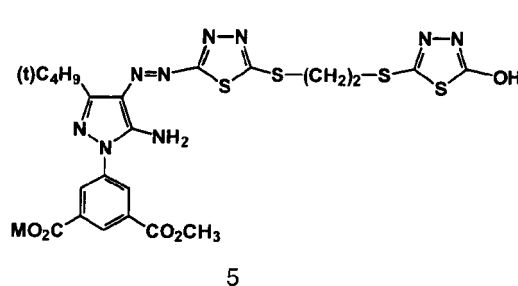
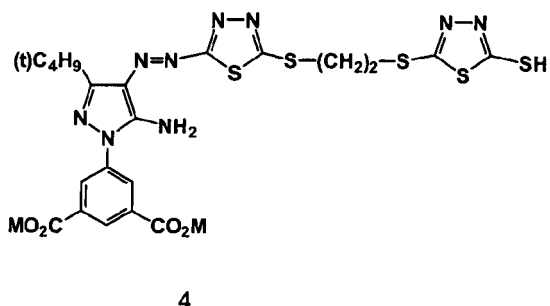
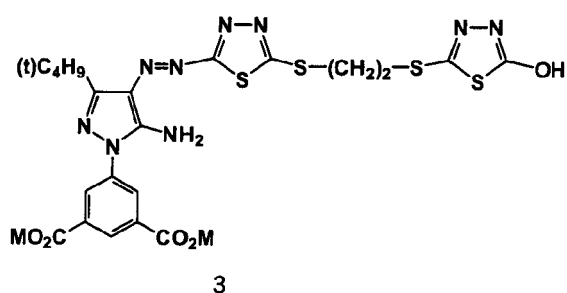
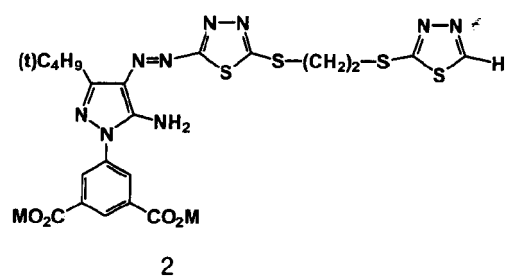
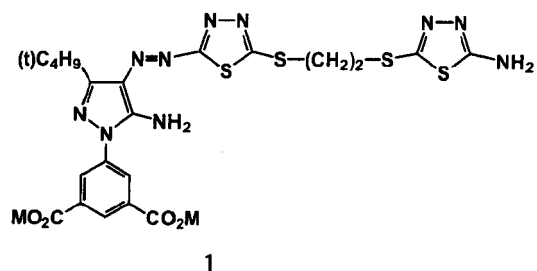


20

(一般式 (Y) 中、M はそれぞれ独立に水素原子またはカチオンを表し、M がカチオンを表す場合は Li^+ イオン、 Na^+ イオン、 K^+ イオンまたは NH_4^+ イオンを表す。)

【化 2】

群 A :



(群 A 中、M はそれぞれ独立に水素原子またはカチオンを表し、M がカチオンを表す場合は Li^+ イオン、 Na^+ イオン、 K^+ イオンまたは NH_4^+ イオンを表す。)

【請求項 2】

10

20

30

40

50

前記群 A より選択される化合物が、1、2、3 及び 8 から選ばれる少なくとも 1 種である請求項 1 に記載のインク組成物。

【請求項 3】

前記一般式 (Y) で表される化合物において、M の主成分が K^+ イオンであり、群 A より選択される化合物において、M の主成分が K^+ イオンである請求項 1 又は 2 に記載のインク組成物。

【請求項 4】

前記一般式 (Y) で表される化合物及び群 A より選択される化合物における M が全て K^+ イオンである請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載のインク組成物。

【請求項 5】

10

前記第 1 の色材の含有量が、インク組成物全質量を基準として、1 質量% 以上 15 質量% 以下である請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載のインク組成物。

【請求項 6】

前記第 2 の色材のインク組成物中における含有量 (質量%) が、前記第 1 の色材のインク組成物中における含有量 (質量%) に対して、質量比率で、0.001 以上 0.2 以下である請求項 1～5 のいずれか 1 項に記載のインク組成物。

【請求項 7】

前記第 2 の色材の含有量が、インク組成物全質量を基準として、0.01 質量% 以上 1.1 質量% 以下である請求項 1～6 のいずれか 1 項に記載のインク組成物。

【請求項 8】

20

前記遷移金属イオンが Ti, Cr, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, Mo, Pd, Ag, Cd, 及び Hg のイオンより選択される少なくとも 1 種であることを特徴とする請求項 1～7 のいずれか一項に記載のインク組成物。

【請求項 9】

前記遷移金属イオンの含有量が $0.01 \text{ mmol/l} \sim 0.1 \text{ mmol/l}$ であることを特徴とする請求項 1～8 のいずれか一項に記載のインク組成物。

【請求項 10】

前記染料を 0.2～20 質量% 含有することを特徴とする請求項 1～9 のいずれか一項に記載のインク組成物。

【請求項 11】

30

請求項 1～10 のいずれか一項に記載のインク組成物を用いることを特徴とするインクジェット記録用インク。

【請求項 12】

支持体上に白色無機顔料粒子を含有する受像層を有する受像材料にインク滴を記録信号に応じて吐出させ、受像材料上に画像を記録するインクジェット記録方法であって、インク滴が請求項 1～10 のいずれか一項に記載のインク組成物からなることを特徴とするインクジェット記録用インク。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

40

本発明は、記録画像の品質が高く、吐出安定性に優れ、しかも得られた画像の保存性が優れたインク組成物、インクジェット記録用インク及びそれを用いたインクジェット記録方法に関する。

【背景技術】

【0002】

近年、コンピュータの普及に伴いインクジェットプリンターがオフィスだけでなく家庭で紙、フィルム、布等に印字するために広く利用されている。

インクジェット記録方法には、 piezo 素子により圧力を加えて液滴を吐出させる方式、熱によりインク中に気泡を発生させて液滴を吐出させる方式、超音波を用いた方式、あるいは静電力により液滴を吸引吐出させる方式がある。これらのインクジェット記録用イン

50

クとしては、水性インク、油性インク、あるいは固体（溶融型）インクが用いられる。これらのインクのうち、製造、取り扱い性・臭気・安全性等の点から水性インクが主流となっている。

【0003】

これらのインクジェット記録用インクに用いられる着色剤に対しては、溶剤に対する溶解性が高いこと、高濃度記録が可能であること、色相が良好であること、光、熱、空気、水や薬品に対する堅牢性に優れていること、受像材料に対して定着性が良く滲みにくいこと、インクとしての保存性に優れていること、毒性がないこと、純度が高いこと、更には、安価に入手できることが要求されている。しかしながら、これらの要求を高いレベルで満たす着色剤を捜し求めることは、極めて難しい。

10

これまでの研究により、インクジェット記録用インクの性能の改善が行われてきている。特許文献1には、特定のピラゾリルアゾ色素により、インクジェット記録用インクに要求される良好な色相と堅牢性の高さを両立できることが開示されている。特許文献2～4にも特定のピラゾリルアゾ色素が記載されている。また、特許文献5には特定構造のアゾ色素を含むインク中における、遷移金属イオン濃度を特定濃度以下とすることで、色素の堅牢性を抑制し得ることが開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2004-083903号公報

20

【特許文献2】特開2005-264085号公報

【特許文献3】特開2007-224276号公報

【特許文献4】特開2006-57062号公報

【特許文献5】特許第3844340号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

近年の更なる研究により、インクジェット記録用インクに求められる性能として、高速印字適正が挙げられる。そのためには表面張力などのインク物性をコントロールし、受像紙へのインクの浸透性を向上させ、インク滲み及び色移りを防止する必要がある。同時にさらなる高画質化の点から、印画物の金属様光沢、いわゆるブロンズ現象を高いレベルで改良し、さらに、優れた保存安定性が要求され続けている。

30

しかしながら、インクの受像紙への浸透性や、印画物のブロンズ光沢、保存安定性に対する解決法については、前記特許文献1及び2には開示がない。

本発明が解決しようとする課題は、受像紙への浸透性が優れた、印画物のブロンズ光沢を抑制し、保存安定性に優れたインク組成物、インクジェット記録用インク並びに記録方法を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の課題は、下記〔1〕～〔12〕によって達成された。

40

【0007】

〔1〕

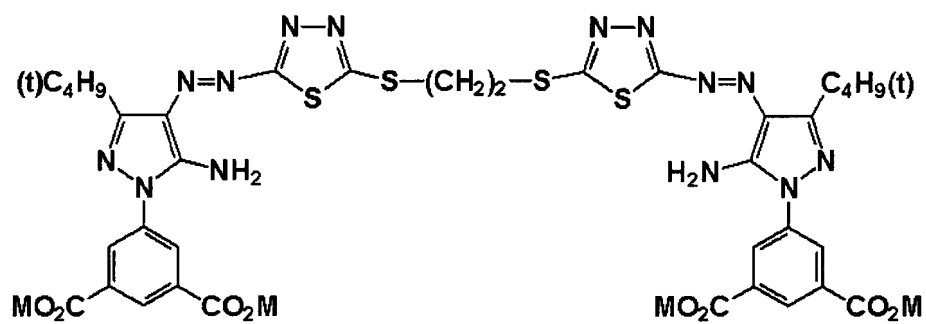
少なくとも、第1の色材、及び第2の色材を含有するインク組成物であって、

前記第1の色材が、下記一般式（Y）で表される化合物であり、前記第2の色材が、下記群Aから選択される少なくとも1種の化合物であり、前記第2の色材のインク組成物中における含有量（質量%）が、前記第1の色材のインク組成物中における含有量（質量%）に対して、質量比率で、0.001以上1.0以下であり、該インク中の遷移金属イオンの含有量が0.0001mmol/l～0.1mmol/lであることを特徴とするインク組成物。

一般式（Y）

50

【化 1】

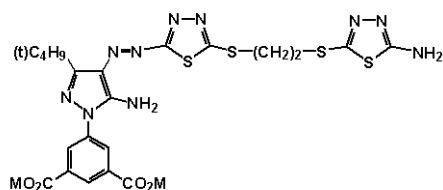


10

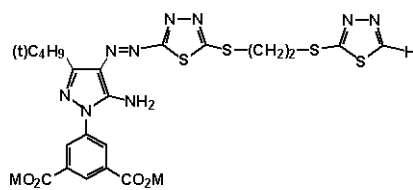
(一般式 (Y) 中、Mはそれぞれ独立に水素原子またはカチオンを表し、Mがカチオンを表す場合は Li^+ イオン、 Na^+ イオン、 K^+ イオンまたは NH_4^+ イオンを表す。)

【化 2】

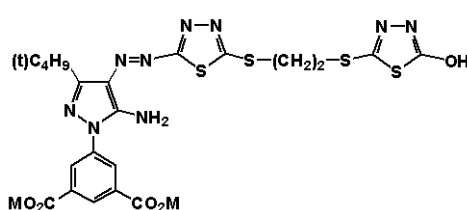
群 A :



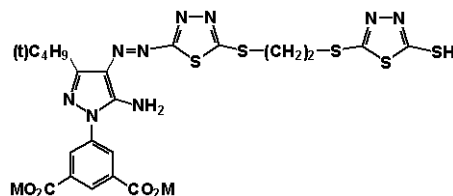
1



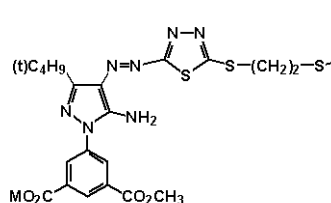
2



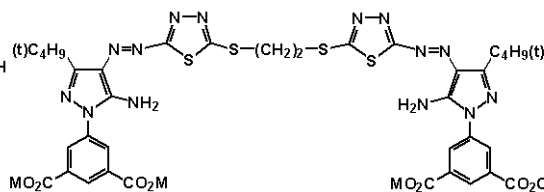
3



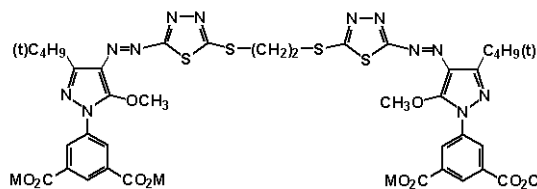
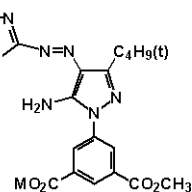
4



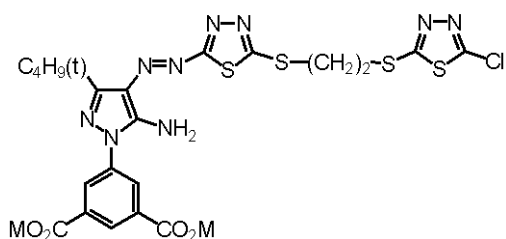
5



6



7



8

(群 A 中、M はそれぞれ独立に水素原子またはカチオンを表し、M がカチオンを表す場合は Li^+ イオン、 Na^+ イオン、 K^+ イオンまたは NH_4^+ イオンを表す。)

〔 2 〕

前記群 A より選択される化合物が、1、2、3 及び 8 から選ばれる少なくとも 1 種である〔 1 〕に記載のインク組成物。

〔 3 〕

前記一般式 (Y) で表される化合物において、M の主成分が K^+ イオンであり、群 A より選択される化合物において、M の主成分が K^+ イオンである〔 1 〕又は〔 2 〕に記載のインク組成物。

〔 4 〕

前記一般式 (Y) で表される化合物及び群 A より選択される化合物における M が全て K

10

20

30

40

50

+ イオンである〔１〕～〔３〕のいずれか１項に記載のインク組成物。

〔５〕

前記第１の色材の含有量が、インク組成物全質量を基準として、１質量％以上１５質量％以下である〔１〕～〔４〕のいずれか１項に記載のインク組成物。〔６〕

前記第２の色材のインク組成物中における含有量（質量％）が、前記第１の色材のインク組成物中における含有量（質量％）に対して、質量比率で、０．００１以上０．２以下である〔１〕～〔５〕のいずれか１項に記載のインク組成物。

〔７〕

前記第２の色材の含有量が、インク組成物全質量を基準として、０．０１質量％以上１．１質量％以下である〔１〕～〔６〕のいずれか１項に記載のインク組成物。

10

〔８〕

前記遷移金属イオンがＴｉ，Ｃｒ，Ｍｎ，Ｆｅ，Ｃｏ，Ｎｉ，Ｃｕ，Ｚｎ，Ｍｏ，Ｐｄ，Ａｇ，Ｃｄ，及びＨｇのイオンより選択される少なくとも１種であることを特徴とする〔１〕～〔７〕のいずれか一項に記載のインク組成物。

〔９〕

前記遷移金属イオンの含有量が０．０１ｍｍｏｌ／ｌ～０．１ｍｍｏｌ／ｌであることを特徴とする〔１〕～〔８〕のいずれか一項に記載のインク組成物。

〔１０〕

前記染料を０．２～２０質量％含有することを特徴とする〔１〕～〔９〕のいずれか一項に記載のインク組成物。

20

〔１１〕

〔１〕～〔１０〕のいずれか一項に記載のインク組成物を用いることを特徴とするインクジェット記録用インク。

〔１２〕

支持体上に白色無機顔料粒子を含有する受像層を有する受像材料にインク滴を記録信号に応じて吐出させ、受像材料上に画像を記録するインクジェット記録方法であって、インク滴が〔１〕～〔１０〕のいずれか一項に記載のインク組成物からなることを特徴とするインクジェット記録用インク。

【発明の効果】

【０００８】

30

本発明のインク組成物、インクジェット記録用インク及び記録方法は表面張力などのインク物性をコントロールし、受像紙へのインクの浸透性を向上させ、インク滲み及び色移りを防止することができる。さらなる高画質化の点から、印画物の金属様光沢、いわゆるブロンズ現象を高いレベルで改良し、保存安定性に優れるインク組成物、インクジェット記録用インク及び記録方法を提供することができる。

【発明を実施するための形態】

【０００９】

以下、本発明を詳細に説明する。

【００１０】

本発明者らは、上記の技術課題を解決するために検討を行い、本発明に至った。すなわち、本発明のインク組成物は、

40

少なくとも、第１の色材、及び第２の色材を含有するインク組成物であって、

前記第１の色材が、下記一般式（Ｙ）で表される化合物であり、前記第２の色材が、下記群Ａから選択される少なくとも１種の化合物であり、前記第２の色材のインク組成物中における含有量（質量％）が、前記第１の色材のインク組成物中における含有量（質量％）に対して、質量比率で、０．００１以上１．０以下であり、該インク中の遷移金属イオンの含有量が０．０００１ｍｍｏｌ／ｌ～０．１ｍｍｏｌ／ｌである。

第１の色材である一般式（Ｙ）で表される化合物と、第２の色材である下記Ａ群から選択される少なくとも１種の化合物とを特定の質量比率で含有し、遷移金属イオン含有量を０．０００１ｍｍｏｌ／ｌ～０．１ｍｍｏｌ／ｌとすることにより、インク組成物の受像

50

紙への浸透性が改良し、印画物のブロンズ光沢が改良し、保存安定性に優れる。

【0011】

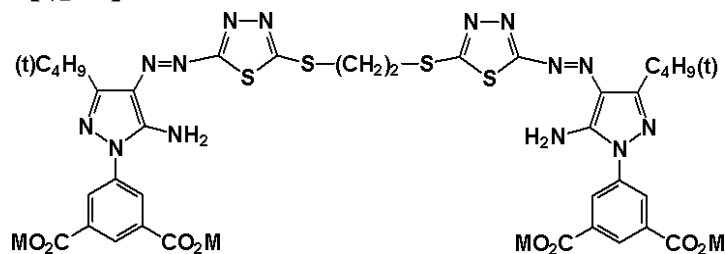
(第1の色材)

〔一般式(Y)で表される化合物〕 本発明のインク組成物において使用する第1の色材であるアゾ染料は、一般式(Y)で表される。以下に、一般式(Y)で表される化合物について説明する。一般式(Y)で表される化合物は水溶性アゾ染料(イエロー)である。また、一般式(Y)で表される化合物を「アゾ染料」と表記する場合がある。

一般式(Y)

【0012】

【化3】



【0013】

(一般式(Y)中、Mはそれぞれ独立に水素原子又はカチオンを表し、Mがカチオンを表す場合は Li^+ イオン、 Na^+ イオン、 K^+ イオン又は NH_4^+ イオンを表す。)

【0014】

Mは、水素原子、 Li^+ イオン、 Na^+ イオン、 K^+ イオン、又は NH_4^+ イオンを表し、特に Na^+ イオン、 K^+ イオン又は NH_4^+ イオンが好ましく、更に Na^+ イオン、 K^+ イオンが好ましく、その中でも特に K^+ イオンが最も好ましい。一般式(Y)で表される染料において、少なくとも1つのMが K^+ イオンであることが好ましく、Mの主成分であるカウンターカチオンが K^+ イオンであることがより好ましく、全てのMが K^+ イオンであることが更に好ましい。

一般式(Y)で表される染料は複数種類のMが存在する混合塩の状態であってもよい。混合塩である場合、インク中に含まれる全式(Y)で表される染料が有するMのうち、モル分率で好ましくは50～100%、更に好ましくは80～100%、その中でも特に90～100%のMが K^+ イオンであることが好ましい。 K^+ イオン以外のMとしては、 Na^+ イオン、 NH_4^+ イオンが好ましく、 Na^+ イオンがより好ましい。

【0015】

また、混合塩ではなく、インク組成物中に含まれる全ての式(Y)で表される染料のMが K^+ イオンであることが最も好ましい。全てのMが K^+ イオンであることにより、水溶液又はインク溶液中に溶解した分子分散状態において、イオン性親水性基であるカルボキシ基又はその塩($-\text{CO}_2\text{M}$)が解離して $-\text{CO}_2^-$ と M^+ にイオン化した状態でカチオン種が交換することにより、より水溶液又はインク溶液に対して溶解性の低い塩の状態を形成して着色剤の塩の状態を析出することを抑制し易いといった効果が得られるためである。

上記一般式(Y)の化合物の中でも特に、下記式(Y-1)の化合物を使用することが好ましい。

式(Y-1)

【0016】

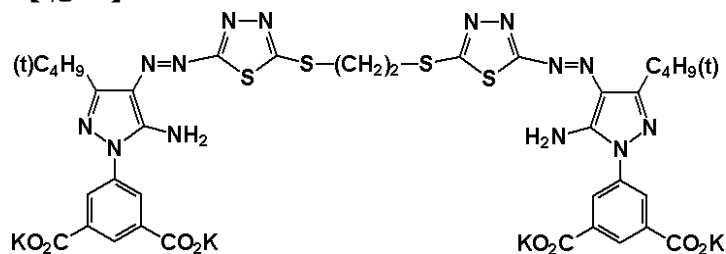
10

20

30

40

【化 4】



【 0 0 1 7 】

一般式 (Y) 及び式 (Y-1) で表される染料は、一般的な合成法で合成することが可能であり、例えば特開 2004-083903 の [0066] 及び [0067] の記載の方法と同様に合成することができる。

【 0 0 1 8 】

〔群 A〕

本発明のインク組成物は、第 1 の色材として使用する上記で説明した前記一般式 (Y) の化合物又は前記式 (Y-1) の化合物に加えて、インク組成物の貯蔵安定性、インクの着色性、印画物の画像堅牢性に優れるという特徴を有する第 2 の色材を含有してなることが必要である。本発明では、第 2 の色材として、下記群 A から選択される少なくとも 1 種の化合物を用いる。下記群 A から選択される少なくとも 1 種の化合物の中でも、特に群 A における化合物 1, 2, 3, 5, 6 又は 8 を用いることが好ましく、1, 2, 3, 6 又は 8 を用いることがより好ましく、1, 2, 3 又は 8 を用いることが更に好ましい。

【 0 0 1 9 】

本発明においては、第 2 の色材として、群 A から選択される少なくとも 1 種の化合物は、単独でも、又は複数を組み合わせて使用してもよい。本発明においては、第 2 の色材として、1 と 2 と 3 と 5 と 6 と 8 とを組み合わせて使用することが好ましく、1 と 2 と 3 と 6 と 8 とを組み合わせて使用することがより好ましく、1 と 2 と 3 と 8 とを組み合わせて使用することが更に好ましい。

【 0 0 2 0 】

また、下記群 A から選択される少なくとも 1 種の化合物は、前記一般式 (Y) の化合物と組み合わせて用いることで相乗効果が発揮され、以下のような効果を得ることができる。すなわち、これらの色材を含有させることで、高い着色力を有するイエローインク組成物とすることができるだけでなく、更に耐光性に優れた画像を与え、加えて、インク供給経路の目詰まり防止や保存安定性を十分満足させることができる。以下、これらの一般式について説明する。

【 0 0 2 1 】

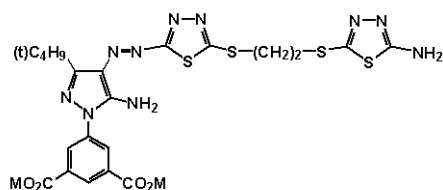
10

20

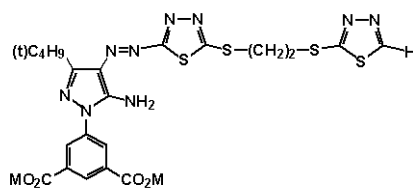
30

【化 5】

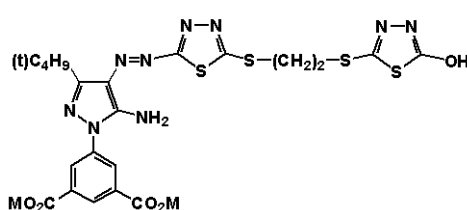
群 A :



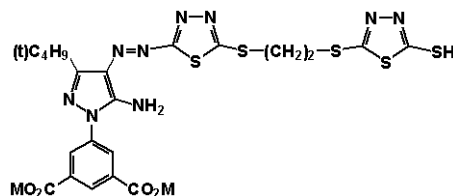
1



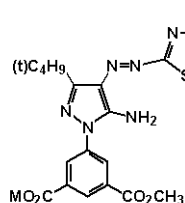
2



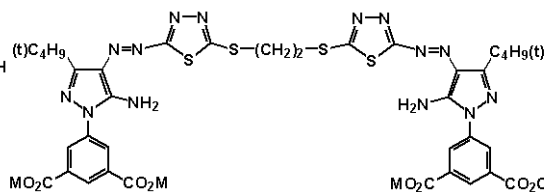
3



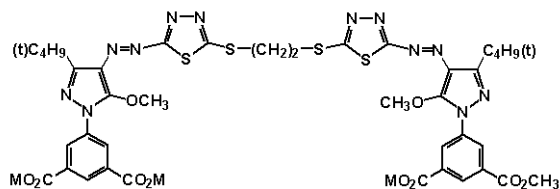
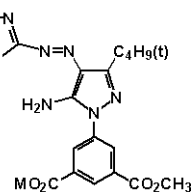
4



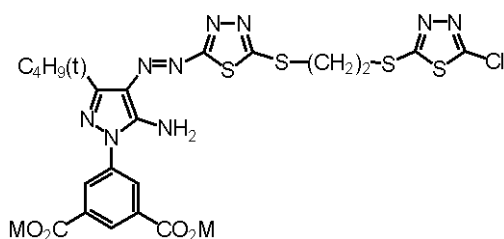
5



6



7



8

【0022】

(群 A 中、M はそれぞれ独立に水素原子又はカチオンを表し、M がカチオンを表す場合は Li^+ イオン、 Na^+ イオン、 K^+ イオン又は NH_4^+ イオンを表す。)

40

群 A から選択される少なくとも 1 種の化合物における M は、水素原子、 Li^+ イオン、 Na^+ イオン、 K^+ イオン、又は NH_4^+ イオンを表し、 Na^+ イオン、 K^+ イオン、 NH_4^+ イオン、が好ましく、更に Na^+ イオン、 K^+ イオンが好ましく、 K^+ イオンがより好ましい。群 A から選択される少なくとも 1 種の化合物において、カウンターカチオン M の主成分が K^+ イオンであることが好ましく、全ての M が K^+ イオンであることがより好ましい。

【0023】

群 A から選択される少なくとも 1 種の化合物は複数種類の M が存在する混合塩の状態であってもよい。混合塩である場合、インク組成物中に含まれる群 A から選択される化合物

50

が有するMのうち、モル分率で好ましくは50～100%、更に好ましくは80～100%、より好ましくは90～100%のMが K^+ イオンであることが好ましい。 K^+ イオン以外のMとしては、 Na^+ イオン、 NH_4^+ イオンが好ましく、 Na^+ イオンがより好ましい。

【0024】

また、混合塩ではなく、インク組成物中に含まれる全ての群Aから選択される化合物のMが K^+ であることが特に好ましい。全てのMが K^+ イオンであることにより、水溶液又はインク溶液中に溶解した分子分散状態において、イオン性親水性基であるカルボキシ基又はその塩($-CO_2M$)が解離して $-CO_2^-$ と M^+ にイオン化した状態でカチオン種が交換することにより、より水溶液又はインク溶液に対して溶解性の低い塩の状態を形成して着色剤の塩の状態を析出することを抑制し易いといった効果が得られるためである。

群Aから選択される化合物は、一般的な合成法で合成することが可能であり、例えば特開2004-083903公報中に記載のジアゾ成分及びカップリング成分を変更、種々組み合わせることで一般式(Y)又は式(Y-1)と同様に合成することができる。

【0025】

本発明においては、一般式(Y)で表される化合物において、カウンターカチオンMの主成分が K^+ イオンであり、群Aより選択される化合物においても、カウンターカチオンMの主成分が K^+ イオンであることが好ましい。ここで、カウンターカチオンMの主成分とは、全カウンターカチオンM中、80%以上を占めるイオン、好ましくは90%以上を占めるイオンを意味する。

一般式(Y)で表される化合物及び群Aより選択される化合物のイオン性親水性基のカウンターカチオンMの主成分が K^+ イオンであれば、インク組成物中の溶解性が高くなり、塩の形成・析出を抑制しインク組成物の貯蔵安定性を大幅に向上することができるためである。

また、一般式(Y)で表される化合物及び群Aより選択される化合物におけるMが全て K^+ イオンであることがより好ましい。これによりインク組成物の貯蔵安定性を大幅に向上することができるためである。

【0026】

〔色材の検証方法〕

本発明で用いる色材がインク組成物及びインク中に含まれているか否かの検証には、液体クロマトグラフ質量分析(LC-MS)を用いた下記(1)～(3)の検証方法が適用できる。

(1) ピークの保持時間

(2) (1)のピークについての最大吸収波長

(3) (1)のピークについてのマススペクトルの m/z (positive)、 m/z (negative)

【0027】

液体クロマトグラフ質量分析の分析条件は、以下に示す通りである。純水で約1,000倍に希釈した液体(インク)を測定用サンプルとした。そして、下記の条件で液体クロマトグラフ質量分析での分析を行い、ピークの保持時間(retention time)、及び、Mass実測値ピークを測定した。

【0028】

<液体クロマトグラフ質量分析(LC-MS)測定条件>

・装置: Agilent 1100 (アジレント・テクノロジー社製)

・カラム: YMC AM-312 内径 6.0 mm × 長さ 150 mm (ワイエムシー社製)

・溶離液: A液 超純水 + 0.1%酢酸、0.2%トリエチルアミン

B液 メタノール + 0.1%酢酸、0.2%トリエチルアミン

・移動相及びグラジエント条件: (表1)

表1中、B. Conc. はB液の濃度を表す。

【0029】

【表1】

表1

Time (min)	0	3	10	30	35	60
B. Conc.	50	50	70	70	90	90

- ・流速：1.0 mL/min
- ・検出波長：210～600 nm
- ・オープン中のカラム温度：40℃

【0030】

また、マススペクトルの分析条件は以下に示す通りである。得られたピークについて、
下記の条件でマススペクトルを測定し、最も強く検出された m/z を $posi$ 、 $neg a$
それぞれに対して測定する。 10

- ・装置：Applied BiosystemsTM QSTAR pulser i (ライフテクノロジー社製)
- ・イオン化法：ESI ($posi$)
- ・キャピラリ電圧：3.5 kV
- ・脱溶媒ガス：300℃
- ・イオン源温度：120℃
- ・検出法：TOF-MS
- ・検出範囲：120～1500 20

【0031】

上記の方法及び条件下で、それぞれの色材の代表例として、第1の色材化合物(Y-1)
)、第2の色材の群A中の化合物1～8(M=K)について測定を行った。その結果、得
られた保持時間、Mass実測値{ m/z ($posi$)}を表2に示した。インク組成物
及びインクについて、上記と同様の方法及び条件下で測定を行って、表2に示す値に該当
する場合、本発明において用いる化合物に該当すると判断できる。

なお、Mは例えば、イオンクロマトグラフによる測定により検証することができる。

イオンクロマトグラフ測定条件：

装置：パーソナルイオンアナライザPIA-1000 (島津製作所製)

カラム：カチオン分析用セミマイクロカラム Shim-pack IC-C3 (S) (30
内径2 mm × 長さ100 mm

移動相：2.5 mM シュウ酸水溶液

カラム温度：35℃

流速：0.2 mL/分

【0032】

【表 2】

表 2

色材	保持時間 (min)	Mass 実測値 (m/z)	Mass 計算値 (m/z)
1	14.2	(M+H) ⁺ : 607.1029	(M+H) ⁺ : C21H23N1004S4
2	15.2	(M+H) ⁺ : 592.0846	(M+H) ⁺ : C21H22N904S4
3	16.9	(M+H) ⁺ : 608.0850	(M+H) ⁺ : C21H22N905S4
4	18.5	N. D.	(M+H) ⁺ : C19H21N704S3
5	21.8	(M+H) ⁺ : 633.0862	(M+H) ⁺ : C22H21N1005S4
Y-1	24.4	(M+H) ⁺ : 921.2026	(M+H) ⁺ : C36H37N1408S4
7	36.7	(M+H) ⁺ : 965.2286	(M+H) ⁺ : C39H41N12010S4
6	38.2	(M+H) ⁺ : 935.2134	(M+H) ⁺ : C37H39N1408S4
8	24.8	(M+H) ⁺ : 626.0218	(M+H) ⁺ : C21H21C1N904S4

10

【0033】

(インク組成物)〔色材の含有量〕

インク組成物中の第1の色材の含有量(質量%)が、インク組成物全質量を基準として、1質量%以上15質量%以下であることが好ましい。また、第1の色材の含有量(質量%)が、インク組成物全質量を基準として、8質量%以上12質量%以下であることも好ましい。

20

本発明のインク組成物は、インク原料として、着色剤を高い濃度で含む濃厚水溶液とすることができる。濃厚水溶液の着色剤濃度は15質量%以下、好ましくは12質量%以下であることが染料の経時安定性、取り扱いの容易さ(粘度)の点で好ましく、染料の経時安定性の向上や輸送コストの抑制の観点から、8質量%以上の濃度であることが好ましい。

また、本発明のインク組成物は、インクジェット用インクとすることもできる。インクジェット用インクの着色剤濃度はインク粘度や、印画物の濃度の点で、1~12質量%が好ましく、2~8質量%がより好ましく、3~6質量%が特に好ましい。

30

インク組成物中の第2の色材〔群Aから選択される少なくとも1種の化合物〕の含有量は、以下のようにすることが好ましい。すなわち、第2の色材の含有量(質量%)は、インク組成物全質量を基準として、0.001質量%以上2.0質量%以下であることが好ましく、0.005質量%以上1.5質量%以下であることがより好ましく、0.01質量%以上1.1質量%以下であることが更に好ましく、0.05質量%以上0.8質量%以下であることが特に好ましい。

【0034】

なお、この場合の第2の色材の含有量は、他の色材との関連において、下記のようにすることが、より好ましい。群Aから選択される少なくとも1種の化合物のいずれかを単独で用いる場合はその含有量が、また、これらから選ばれる2種以上を併用する場合はその合計含有量が、それぞれ上記の範囲を満足するように構成することが好ましい。第1の色材及び/又は第2の色材の含有量を上記範囲とすることで、画像の耐光性と色調を満足させるだけではなく、保存安定性や記録耐久性といった、インク組成物を用いたインクの信頼性の点も満足させることが可能となる。

40

群A中の化合物1は、インク組成物全質量を基準として、0.001~1.0質量%含まれることが好ましく、0.01~1.0質量%含まれることがより好ましい。

群A中の化合物2は、インク組成物全質量を基準として、0.003~3.0質量%含まれることが好ましく、0.1~3.0質量%含まれることがより好ましい。

群A中の化合物3は、インク組成物全質量を基準として、0.001~1.0質量%含

50

まれることが好ましく、0.01～1.0質量%含まれることがより好ましい。

群A中の化合物4は、インク組成物全質量を基準として、0.0～0.5質量%含まれることが好ましい。

群A中の化合物5は、インク組成物全質量を基準として、0.0～0.5質量%含まれることが好ましい。

群A中の化合物6は、インク組成物全質量を基準として、0.0～0.5質量%含まれることが好ましい。

群A中の化合物7は、インク組成物全質量を基準として、0.0～0.5質量%含まれることが好ましい。

群A中の化合物8は、インク組成物全質量を基準として、0.002～2.0質量%含まれることが好ましく、0.05～2.0質量%含まれることがより好ましい。 10

【0035】

インク組成物全質量を基準とした、第2の色材の含有量（質量%）は、第1の色材の含有量（質量%）に対して、質量比率で、 $(\text{第2の色材} / \text{第1の色材}) = 0.001$ 以上1.0以下であることが必要である。

【0036】

本発明においては更に、第2の色材の含有量（質量%）は、第1の色材の含有量（質量%）に対して、質量比率で、 $(\text{第2の色材} / \text{第1の色材}) = 0.001$ 以上0.3以下であることが好ましい。色材の含有量の質量比率を上記範囲となるように構成することで、第1の色材が有する溶解性・耐光性と第2の色材が有する溶解性・耐光性との組み合わせから予測される性能をはるかに上回る高いレベルの耐光性を有する画像を形成することができる。また、より好ましい色調の画像を得ることができる。第2の色材の含有量（質量%）は、第1の色材の含有量（質量%）に対して、質量比率で、 $(\text{第2の色材} / \text{第1の色材}) = 0.001$ 以上0.2以下であることがより好ましく、0.01以上0.2以下であることが更に好ましく、0.02以上0.12以下であることがより更に好ましい。色材の含有量の質量比率をこの範囲とすることで、上記の含有量の質量比率においても特に高いレベルの耐光性を有する画像を形成することができる。更には特に好ましい色調の画像を得ることができ、加えて、インクとしての信頼性も十分に満足することが可能となる。 20

【0037】

質量比率が0.001以上であると、インク溶液の保存安定性が向上し、1.0以下であれば、インク組成物の水溶液安定性に優れる。色材の含有量の質量比率を上記範囲となるように構成することで、第1の色材が有する溶解性・画像堅牢性と、第2の色材が有する溶解性・画像堅牢性との組み合わせから予測される性能を上回る高いレベルのインク液貯蔵安定性・印画物の画像堅牢性を達成することができる。また、好ましい色調の画像が得られ、インクとしての信頼性も満足できる。 30

【0038】

第1の色材と第2の色材とを特定の質量比率で用いることで、相乗効果が発揮され、予測を上回るインクの貯蔵安定性付与と印画物の画像堅牢化を両立できる理由を本発明者らは以下のように推測している。第1の色材は、もともと水性媒体に対する溶解性が低い傾向があるため、これらの化合物を含有するインク組成物を用いたインクを記録媒体に付与すると、その直後から速やかに色材の会合や凝集が起こる。会合や凝集は、画像を形成している記録媒体上の色材の堅牢性を向上させる傾向がある。しかし、その一方で、過度の会合や凝集は、水溶液及びインク溶液への溶解性を低下させる場合がある。これに対し、第1の色材と第2の色材とを共存させることで、記録媒体上で、第1の色材が耐光性に関して最適な会合や凝集の状態を形成し、これにより、画像の耐光性が向上したものと考えられる。 40

【0039】

また、第1の色材と第2の色材とを特定の質量比率で用いることで、相乗効果が発揮され、インク組成物を用いたインクの信頼性が達成される理由を本発明者らは以下のように 50

推測している。上記で述べた通り、インク中には、インクカートリッジやインク供給経路を構成する部材から溶出したと考えられる不純物が混入し、インク供給経路の目詰まりやインク供給特性の低下、インク保存安定性の低下の原因となる場合がある。本発明者らは検討の結果、第一の色材構造に類似の第二の色材をインク中に共存させることにより、インクの着色力を低下させることなく、第一の色材の結晶化抑制を付与することができ、インクの貯蔵安定性を大幅に向上させることができたと考えている。つまり、色材として第1の色材のみを使用することでは達成が困難であったインクの信頼性に関して、第2の色材を併用することにより、予想を上回る効果が得られ、十分な信頼性を達成することができるのである。

【0040】

本発明に用いられる上記イエロー染料は、優れたオゾンガスに対する強制褪色速度定数を有する。オゾンガスに対する強制褪色速度定数の測定は、当該インクのみを反射型受像媒体に印画して得られた画像の該インクの主分光吸収領域の色であってステータスAのフィルターを通して測定した反射濃度が0.90～1.10の濃度の着色領域を初期濃度点として選択し、この初期濃度を開始濃度(=100%)とする。この画像を5mg/Lのオゾン濃度を常時維持するオゾン褪色試験機を用いて褪色させ、その濃度が初期濃度の80%となるまでの時間を測定し、この時間の逆数[hour⁻¹]を求め、褪色濃度と時間関係が一次反応の速度式に従うとの仮定のもとに、褪色反応速度定数とする。したがって、求められる褪色速度定数は当該インクによって印画された着色領域の褪色速度定数であるが、本明細書では、この値をインクの褪色速度定数として用いる。

【0041】

試験用の印画パッチは、JISコード2223の黒四角記号を印字したパッチ、マクベスチャートの階段状カラーパッチ、そのほか測定面積が得られる任意の階段濃度パッチを用いることができる。

【0042】

測定用に印画される反射画像(階段状カラーパッチ)の反射濃度は、国際規格ISO5-4(反射濃度の幾何条件)を満たした濃度計によりステータスAフィルターを透した測定光で求められた濃度である。

【0043】

オゾンガスに対する強制褪色速度定数測定用の試験チャンバーには、内部のオゾンガス濃度を定常的に5mg/Lに維持可能なオゾン発生装置(例えば乾燥空気に交流電圧を印可する高圧放電方式)が設けられ、曝気温度は25℃に調節される。

【0044】

なお、この強制褪色速度定数は、光化学スモッグ、自動車排気、家具の塗装面や絨毯などからの有機蒸気、明室の額縁内の発生ガスなどの環境中の酸化性雰囲気による酸化の受け易さの指標であって、オゾンガスによってこれらの酸化性雰囲気を代表させた指標である。

【0045】

また、インク組成物中の第1の色材と、第2の色材との含有量の合計(質量%)が、インク組成物全質量を基準として、1.00質量%以上12.00質量%以下であることが好ましく、特に3.00質量%以上8.0質量%以下であることが好ましい。含有量の合計が1.00質量%以上であれば、耐光性及び発色性が十分に得られ、含有量の合計が12.00質量%以下であれば、インク中に不溶物の析出等が無くインクジェット吐出特性に優れる。

【0046】

なお、本発明のインク組成物がインクジェット記録用インクのイエローインクである場合、イエローインクとして好ましい色調とは、以下の二つのことを意味する。すなわち、イエローインクのみを用いて形成した画像が赤味や緑味を帯びていないことを意味する。更に、これに加えて、イエローインクを用いて形成する2次色の画像、つまりレッドやグリーンの画像を形成する際に、レッド及びグリーンの色再現範囲をいずれも大きく損失す

ることがない色調を有することを意味する。

【0047】

本発明のインク組成物（好ましくはインクジェット記録用インク）には、第1の色材である前記一般式（Y）で表される水溶性アゾ染料、前記第2の色材である群Aから選ばれる少なくとも1種の化合物、及び一般式（2）で表される化合物とともに色調を整えるためや性能のバランスをとるために他の染料を併用してもよい。また、フルカラーの画像を得る目的で、本発明のインク組成物とともに他の色素を含むインクを併用してもよい。併用することができる染料や色素の例としては以下を挙げることができる。

【0048】

イエロー染料としては、例えばカップリング成分としてフェノール類、ナフトール類、アニリン類、ピラゾロン類、ピリドン類、開鎖型活性メチレン化合物類を有するアリール若しくはヘテリルアゾ染料；例えばカップリング成分として開鎖型活性メチレン化合物類を有するアゾメチン染料；例えばベンジリデン染料やモノメチンオキシノール染料等のようなメチン染料；例えばナフトキノン染料、アントラキノン染料等のようなキノン系染料などがあり、これ以外の染料種としてはキノフタロン染料、ニトロ・ニトロソ染料、アクリジン染料、アクリジノン染料等を挙げることができる。これらの染料は、クロモフォアの一部が解離して初めてイエローを呈するものであってもよく、その場合のカウンターカチオンはアルカリ金属や、アンモニウムのような無機のカチオンであってもよいし、ピリジニウム、4級アンモニウム塩のような有機のカチオンであってもよく、更にはそれらを部分構造に有するポリマーカチオンであってもよい。

【0049】

マゼンタ染料としては、例えばカップリング成分としてフェノール類、ナフトール類、アニリン類を有するアリール若しくはヘテリルアゾ染料；例えばカップリング成分としてピラゾロン類、ピラゾロトリアゾール類を有するアゾメチン染料；例えばアリーリデン染料、スチリル染料、メロシアニン染料、オキシノール染料のようなメチン染料；ジフェニルメタン染料、トリフェニルメタン染料、キサントゲン染料のようなカルボニウム染料、例えばナフトキノン、アントラキノン、アントラピリドンなどのようなキノン系染料、例えばジオキサジン染料等のような縮合多環系染料等を挙げることができる。これらの染料は、クロモフォアの一部が解離して初めてマゼンタを呈するものであってもよく、その場合のカウンターカチオンはアルカリ金属や、アンモニウムのような無機のカチオンであってもよいし、ピリジニウム、4級アンモニウム塩のような有機のカチオンであってもよく、更にはそれらを部分構造に有するポリマーカチオンであってもよい。

【0050】

シアン染料としては、例えばインドアニリン染料、インドフェノール染料のようなアゾメチン染料；シアニン染料、オキシノール染料、メロシアニン染料のようなポリメチン染料；ジフェニルメタン染料、トリフェニルメタン染料、キサントゲン染料のようなカルボニウム染料；フタロシアニン染料；アントラキノン染料；例えばカップリング成分としてフェノール類、ナフトール類、アニリン類を有するアリール若しくはヘテリルアゾ染料、インジゴ・チオインジゴ染料を挙げることができる。これらの染料は、クロモフォアの一部が解離して初めてシアンを呈するものであってもよく、その場合のカウンターカチオンはアルカリ金属や、アンモニウムのような無機のカチオンであってもよいし、ピリジニウム、4級アンモニウム塩のような有機のカチオンであってもよく、更にはそれらを部分構造に有するポリマーカチオンであってもよい。

また、ポリアゾ染料などのブラック染料も使用することができる。

【0051】

水溶性染料としては、直接染料、酸性染料、食用染料、塩基性染料、反応性染料等が挙げられる。好ましいものとしては、C. I. ダイレクトレッド2、4、9、23、26、31、39、62、63、72、75、76、79、80、81、83、84、89、92、95、111、173、184、207、211、212、214、218、21、223、224、225、226、227、232、233、240、241、242、

243、247C. I. ダイレクトバイオレット7、9、47、48、51、66、90、93、94、95、98、100、101C. I. ダイレクトイエロー8、9、11、12、27、28、29、33、35、39、41、44、50、53、58、59、68、86、87、93、95、96、98、100、106、108、109、110、130、132、142、144、161、163C. I. ダイレクトブルー1、10、15、22、25、55、67、68、71、76、77、78、80、84、86、87、90、98、106、108、109、151、156、158、159、160、168、189、192、193、194、199、200、201、202、203、207、211、213、214、218、225、229、236、237、244、248、249、251、252、264、270、280、288、289、291C. I. ダイレクトブラック9、17、19、22、32、51、56、62、69、77、80、91、94、97、108、112、113、114、117、118、121、122、125、132、146、154、166、168、173、199C. I. アシッドレッド35、42、52、57、62、80、82、111、114、118、119、127、128、131、143、151、154、158、249、254、257、261、263、266、289、299、301、305、336、337、361、396、397C. I. アシッドバイオレット5、34、43、47、48、90、103、126C. I. アシッドイエロー17、19、23、25、39、40、42、44、49、50、61、64、76、79、110、127、135、143、151、159、169、174、190、195、196、197、199、218、219、222、227C. I. アシッドブルー9、25、40、41、62、72、76、78、80、82、92、106、112、113、120、127:1、129、138、143、175、181、205、207、220、221、230、232、247、258、260、264、271、277、278、279、280、288、290、326C. I. アシッドブラック7、24、29、48、52:1、172C. I. リアクティブレッド3、13、17、19、21、22、23、24、29、35、37、40、41、43、45、49、55C. I. リアクティブバイオレット1、3、4、5、6、7、8、9、16、17、22、23、24、26、27、33、34C. I. リアクティブイエロー2、3、13、14、15、17、18、23、24、25、26、27、29、35、37、41、42C. I. リアクティブブルー2、3、5、8、10、13、14、15、17、18、19、21、25、26、27、28、29、38C. I. リアクティブブラック4、5、8、14、21、23、26、31、32、34C. I. ベーシックレッド12、13、14、15、18、22、23、24、25、27、29、35、36、38、39、45、46C. I. ベーシックバイオレット1、2、3、7、10、15、16、20、21、25、27、28、35、37、39、40、48C. I. ベーシックイエロー1、2、4、11、13、14、15、19、21、23、24、25、28、29、32、36、39、40C. I. ベーシックブルー1、3、5、7、9、22、26、41、45、46、47、54、57、60、62、65、66、69、71C. I. ベーシックブラック8、等が挙げられる。

【0052】

更に本発明のインクには、顔料も併用し得る。

本技術に用いられる顔料としては、市販のもの他、各種文献に記載されている公知のものが利用できる。文献に関してはカラーインデックス(The Society of Dyers and Colourists編)、「改訂新版顔料便覧」日本顔料技術協会編(1989年刊)、「最新顔料応用技術」CMC出版(1986年刊)、「印刷インキ技術」CMC出版(1984年刊)、W. Herbst, K. Hunger共著によるIndustrial Organic Pigments (VCH Verlagsgesellschaft、1993年刊)等がある。具体的には、有機顔料ではアゾ顔料(アゾレーキ顔料、不溶性アゾ顔料、縮合アゾ顔料、キレートアゾ顔料)、多環式顔料(フタロシアニン系顔料、アントラキノン系顔料、ペリレン及びペリノン系顔料、イン

ジゴ系顔料、キナクリドン系顔料、ジオキサジン系顔料、イソインドリノン系顔料、キノフタロン系顔料、ジケトピロロピロール系顔料等）、染付けレーキ顔料（酸性又は塩基性染料のレーキ顔料）、アジン顔料等があり、無機顔料では、黄色顔料のC. I. Pigment Yellow 34, 37, 42, 53など、赤系顔料のC. I. Pigment Red 101, 108など、青系顔料のC. I. Pigment Blue 27, 29, 17:1など、黒系顔料のC. I. Pigment Black 7, マグネタイトなど、白系顔料のC. I. Pigment White 4, 6, 18, 21などを挙げることができる。

【0053】

画像形成用に好ましい色調を持つ顔料としては、青ないしシアン顔料ではフタロシアニン顔料、アントラキノン系のインダントロン顔料（たとえばC. I. Pigment Blue 60など）、染め付けレーキ顔料系のトリアリールカルボニウム顔料が好ましく、特にフタロシアニン顔料（好ましい例としては、C. I. Pigment Blue 15:1、同15:2、同15:3、同15:4、同15:6などの銅フタロシアニン、モノクロロないし低塩素化銅フタロシアニン、アルニウムフタロシアニンでは欧州特許860475号に記載の顔料、C. I. Pigment Blue 16である無金属フタロシアニン、中心金属がZn、Ni、Tiであるフタロシアニンなど、中でも好ましいものはC. I. Pigment Blue 15:3、同15:4、アルミニウムフタロシアニン）が最も好ましい。

【0054】

赤ないし紫色の顔料では、アゾ顔料（好ましい例としては、C. I. Pigment Red 3、同5、同11、同22、同38、同48:1、同48:2、同48:3、同48:4、同49:1、同52:1、同53:1、同57:1、同63:2、同144、同146、同184）など、中でも好ましいものはC. I. Pigment Red 57:1、同146、同184）、キナクリドン系顔料（好ましい例としてはC. I. Pigment Red 122、同192、同202、同207、同209、C. I. Pigment Violet 19、同42、なかでも好ましいものはC. I. Pigment Red 122）、染め付けレーキ顔料系のトリアリールカルボニウム顔料（好ましい例としてはキサンテン系のC. I. Pigment Red 81:1、C. I. Pigment Violet 1、同2、同3、同27、同39）、ジオキサジン系顔料（例えばC. I. Pigment Violet 23、同37）、ジケトピロロピロール系顔料（例えばC. I. Pigment Red 254）、ペリレン顔料（例えばC. I. Pigment Violet 29）、アントラキノン系顔料（例えばC. I. Pigment Violet 5:1、同31、同33）、チオインジゴ系（例えばC. I. Pigment Red 38、同88）が好ましく用いられる。

【0055】

黄色顔料としては、アゾ顔料（好ましい例としてはモノアゾ顔料系のC. I. Pigment Yellow 1, 3, 74, 98、ジスアゾ顔料系のC. I. Pigment Yellow 12, 13, 14, 16, 17, 83、総合アゾ系のC. I. Pigment Yellow 93, 94, 95, 128, 155、ベンズイミダゾロン系のC. I. Pigment Yellow 120, 151, 154, 156, 180など、なかでも好ましいものはベンジジン系化合物を原料に使用しないもの）、イソインドリン・イソインドリノン系顔料（好ましい例としてはC. I. Pigment Yellow 109, 110, 137, 139など）、キノフタロン顔料（好ましい例としてはC. I. Pigment Yellow 138など）、フラバントロン顔料（例えばC. I. Pigment Yellow 24など）が好ましく用いられる。

【0056】

黒顔料としては、無機顔料（好ましくは例としてはカーボンブラック、マグネタイト）やアニリンブラックを好ましいものとして挙げることができる。

この他、オレンジ顔料（C. I. Pigment Orange 13, 16など）や

緑顔料 (C. I. Pigment Green 7 など) を使用してもよい。

【0057】

本技術に使用できる顔料は、上述の裸の顔料であっても良いし、表面処理を施された顔料でも良い。表面処理の方法には、樹脂やワックスを表面コートする方法、界面活性剤を付着させる方法、反応性物質 (例えば、シランカップリング剤やエポキシ化合物、ポリイソシアネート、ジアゾニウム塩から生じるラジカルなど) を顔料表面に結合させる方法などが考えられ、次の文献や特許に記載されている。

- (1) 金属石鹼の性質と応用 (幸書房)
- (2) 印刷インキ印刷 (CMC 出版 1984)
- (3) 最新顔料応用技術 (CMC 出版 1986)
- (4) 米国特許 5, 554, 739 号、同 5, 571, 311 号
- (5) 特開平 9-151342 号、同 10-140065 号、同 10-292143 号、同 11-166145 号

特に、上記 (4) の米国特許に記載されたジアゾニウム塩をカーボンブラックに作用させて調製された自己分散性顔料や、上記 (5) の日本特許に記載された方法で調製されたカプセル化顔料は、インク中に余分な分散剤を使用することなく分散安定性が得られるため特に有効である。

【0058】

本発明においては、顔料は更に分散剤を用いて分散されていてもよい。分散剤は、用いる顔料に合わせて公知の種々のもの、例えば界面活性剤型の低分子分散剤や高分子型分散剤を用いることが出来る。分散剤の例としては特開平 3-69949 号、欧州特許 549486 号等に記載のものを挙げることができる。また、分散剤を使用する際に分散剤の顔料への吸着を促進するためにシナジストと呼ばれる顔料誘導体を添加してもよい。

本技術に使用できる顔料の粒径は、分散後で 0.01~10 μm の範囲であることが好ましく、0.05~1 μm であることが更に好ましい。

顔料を分散する方法としては、インク製造やトナー製造時に用いられる公知の分散技術が使用できる。分散機としては、縦型あるいは横型のアジテーターミル、アトライター、コロイドミル、ボールミル、3本ロールミル、パールミル、スーパーミル、インペラー、デスパーサー、KDミル、ダイナトロン、加圧ニーダー等が挙げられる。詳細は「最新顔料応用技術」(CMC 出版、1986) に記載がある。

【0059】

〔金属イオン〕

次に、本発明にかかるインクに含まれる金属イオンについて説明する。本発明にかかるインクには後述する遷移金属イオンが含有される。また、一般式 (Y) で表される染料に由来するリチウム、ナトリウム、カリウム、アンモニウムの中から選ばれるいずれかの一価のカチオンが含有し得る。

【0060】

その他、各種添加剤や溶剤及びその原料、添加剤等の合成過程の反応触媒や装置などから不純物カチオンとして混入する。特に遷移金属イオンは磁性を有したり、錯体形成したり、水和イオンが着色したりしやすいため、吐出ヘッドへの析出やノズル詰まりの原因となったり、形成した画像のくすみなどを引き起こしたり、紙への浸透阻害を引き起こしたり、染料を過度に凝集させたりする。特に淡い色のイエロー画像や分子量の大きな 2 量体型の染料やヘテロ原子を多く含む染料などで顕著である。完全に除去することが好ましいが、効果と効率のバランスで、上限値と下限値が決まる。

【0061】

〔遷移金属イオン〕

本発明のインクは、インク中に含まれる遷移金属イオン含有量が、0.0001 mmol/l~0.1 mmol/l であるという特徴を有する。金属イオンとして遷移金属イオンを含まないようにするためには、染料の合成の過程で金属容器の使用を避ける、金属イオンフリーの状態にしてから、アルカリ金属塩にする、遷移金属のマスク剤を合成時に添

加して金属イオンを除く、生成した染料をイオン交換するなどの方法で行うことができる。

また、インクを調液する際の溶媒からイオンを取り除くことも重要である。特にメインの溶媒である水については、脱イオン水を使用することが好ましい。

【0062】

本発明のインク中に含まれる遷移金属イオンの含有量は $0.0001\text{ mmol/l} \sim 0.1\text{ mmol/l}$ であり、好ましくは $0.01\text{ mmol/l} \sim 0.1\text{ mmol/l}$ である。遷移金属イオン含有量を上記の範囲にすることにより、インクジェット記録用インクの受像紙への浸透性が改良し、印画物のブロンズ光沢が改良し、保存安定性に優れる。

【0063】

前記遷移金属イオンとしてはTi, Cr, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, Mo, Pd, Ag, Cd, 及びHgのイオンより選択される少なくとも1種を挙げることができ、本発明のインク中に含まれる遷移金属イオンとしてTi, Cr, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, Mo, Pd, Ag, Cd, 及びHgの含有量の合計が上記の範囲であることがより好ましく、Fe, Cr, Ni, Znのイオンの含有量の合計が上記の範囲であることが更に好ましい。これらの遷移金属イオンは反応釜や水道管のステンレスや鉄に由来することが考えられる。

【0064】

次に、本発明のインクジェット記録用インクが含有し得る界面活性剤について説明する。

本発明で使用される界面活性剤としては脂肪酸塩類、高級アルコールのエステル塩類、アルキルベンゼンスルホン酸塩類、スルホコハク酸エステル塩類、高級アルコールのリン酸エステル塩類等のアニオン界面活性剤、脂肪族アミン塩類、4級アンモニウム塩類等のカチオン界面活性剤、高級アルコールのエチレンオキサイド付加物、アルキルフェノールのエチレンオキサイド付加物、多価アルコール脂肪酸エステルエチレンオキサイド付加物、アセチレングリコール及びそのエチレンオキサイド付加物等のノニオン界面活性剤、アミノ酸型、ベタイン型等の両性界面活性剤、フッ素系、シリコン系化合物等が挙げられる。これらは単独であるいは2種以上を用いることができる。

【0065】

本発明のインクジェット記録用インクに界面活性剤を含有させ、表面張力等のインクの液物性を調整することで、インクの吐出安定性を向上させ、画像の耐水性の向上や印字したインクの滲み及び色移りの防止などに優れた効果を持たせることができる。また、上記の界面活性剤は2種類以上併用してもよい。

本発明で用いるインク組成物は、界面活性剤を $0.05 \sim 50\text{ g/L}$ 含有することが好ましく、より好ましくは $0.05 \sim 30\text{ g/L}$ 含有する。インク組成物中の界面活性剤の含有量が $0.05 \sim 50\text{ g/L}$ の範囲にあると、吐出安定性の低下、混色時の滲みの発生、ひげ発生などの印字品質の低下が起こらず、吐出時、ハード表面へのインクの付着等による印字不良を抑えることができる。

【0066】

本発明のインクジェット記録用インクは、水性媒体中に前記染料を溶解させ、更に界面活性剤を特定量添加し、必要に応じてその他の添加剤を溶解及び／又は分散させることによって作製することができる。本発明における「水性媒体」とは、水又は水と少量の水混和性有機溶剤との混合物に、必要に応じて湿潤剤、安定剤、防腐剤等の添加剤を添加したものを意味する。

【0067】

本発明のインク液を調液する際には、水溶性インクの場合、まず水に溶解することが好ましい。そのあと、各種溶剤や添加物を添加し、溶解、混合して均一なインク液とする。

このときの溶解方法としては、攪拌による溶解、超音波照射による溶解、振とうによる溶解等種々の方法が使用可能である。中でも特に攪拌法が好ましく使用される。攪拌を行う場合、当該分野では公知の流動攪拌や反転アジターやディゾルバを利用した剪断力を利

10

20

30

40

50

用した攪拌など、種々の方式が利用可能である。一方では、磁気攪拌子のように、容器底面との剪断力を利用した攪拌法も好ましく利用できる。

【0068】

水性のインクジェット用インクの調製方法については、特開平5-148436号、同5-295312号、同7-97541号、同7-82515号、同7-118584号、特開2002-020657、特開2002-060663の各公報に詳細が記載されていて、本発明のインクジェット記録用インクの調製にも利用できる。

【0069】

本発明のインクは、一般式(Y)で表される少なくとも1種の水溶性染料を含有してもよい。前記水混和性有機溶剤の例は、以下のものが挙げられる。下記の中から本発明に適切な水混和性有機溶剤を選ぶことができる。

アルコール(例、メタノール、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、ブタノール、イソブタノール、sec-ブタノール、tert-ブタノール、ペンタノール、ヘキサノール、シクロヘキサノール、ベンジルアルコール)、多価アルコール類(例、エチレングリコール、ジエチレングリコール、チオジエチレングリコール、トリエチレングリコール、テトラエチレングリコール、ポリエチレングリコール、2-ブテン-1,4-ジオール、2-メチル-2,4-ペンタンジオール、1,3-ブタンジオール、1,5-ペンタンジオール、1,2-ヘキサジオール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、ブチレングリコール、ヘキサジオール、ペンタンジオール、グリセリン、ヘキサントリオール、チオジグリコール)、グリコール誘導体(例、エチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールモノブチルエーテル、トリエチレングリコールモノブチルエーテル、プロピレングリコールモノメチルエーテル、プロピレングリコールモノブチルエーテル、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、ポリエチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノイソプロピルエーテル、トリエチレングリコールモノブチルエーテル、エチレングリコールモノイソブチルエーテル、ジエチレングリコールモノイソブチルエーテル、プロピレングリコールモノプロピルエーテル、

【0070】

エチレングリコールジアセテート、エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート、トリエチレングリコールモノメチルエーテル、トリエチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノフェニルエーテル)、アミン(例、エタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、N-メチルジエタノールアミン、N-エチルジエタノールアミン、モルホリン、N-エチルモルホリン、エチレンジアミン、ジエチレントリアミン、トリエチレンテトラミン、ポリエチレンイミン、テトラメチルプロピレンジアミン)及びその他の極性溶媒(例、ホルムアミド、N,N-ジメチルホルムアミド、N,N-ジメチルアセトアミド、ジメチルスルホキシド、スルホラン、2-ピロリドン、N-メチル-2-ピロリドン、N-ビニル-2-ピロリドン、2-オキサゾリドン、1,3-ジメチル-2-イミダゾリジノン、アセトニトリル、アセトン、ジアセトンアルコール)。

なお、前記水混和性有機溶剤は、二種類以上を併用してもよい。

【0071】

本発明で併用する前記他の染料が油溶性染料の場合は、該油溶性染料を高沸点有機溶媒中に溶解させ、水性媒体中に乳化分散させることによって調製することができる。

用いられる高沸点有機溶媒の沸点は150℃以上であるが、好ましくは170℃以上である。

高沸点有機溶媒は油溶性染料に対して質量比で0.01~3倍量、好ましくは0.01~1.0倍量で利用できる。

これらの高沸点有機溶媒は単独で使用しても、数種の混合で使用してもよい。

上記高沸点有機溶媒は、油溶性染料に対し、質量比で0.01～3.0倍量、好ましくは0.01～1.0倍量で使用する。

【0072】

本発明では油溶性染料や高沸点有機溶媒は、水性媒体中に乳化分散して用いられる。乳化分散の際、乳化性の観点から場合によっては低沸点有機溶媒を用いることができる。低沸点有機溶媒としては、常圧で沸点約30℃以上150℃以下の有機溶媒である。例えばエステル類（例えばエチルアセテート、ブチルアセテート、エチルプロピオネート、β-エトキシエチルアセテート、メチルセロソルブアセテート）、アルコール類（例えばイソプロピルアルコール、n-ブチルアルコール、セカンダリーブチルアルコール）、ケトン類（例えばメチルイソブチルケトン、メチルエチルケトン、シクロヘキサノン）、アミド類（例えばジメチルホルムアミド、N-メチルピロリドン）、エーテル類（例えばテトラヒドロフラン、ジオキサン）等が好ましく用いられるが、これに限定されるものではない。

10

【0073】

乳化分散は、高沸点有機溶媒と場合によっては低沸点有機溶媒の混合溶媒に染料を溶かした油相を、水を主体とした水相中に分散し、油相の微小油滴を作るために行われる。この際、水相、油相のいずれか又は両方に、後述する界面活性剤、湿潤剤、染料安定化剤、乳化安定剤、防腐剤、防黴剤等の添加剤を必要に応じて添加することができる。乳化法としては水相中に油相を添加する方法が一般的であるが、油相中に水相を滴下して行く、いわゆる転相乳化法も好ましく用いることができる。

20

【0074】

高圧乳化分散装置で乳化する際の圧力は50MPa以上であり、好ましくは60MPa以上、更に好ましくは180MPa以上である。

例えば、攪拌乳化機で乳化した後、高圧ホモジナイザーを通す等の方法で2種以上の乳化装置を併用するのは特に好ましい方法である。また、一度これらの乳化装置で乳化分散した後、湿潤剤や界面活性剤等の添加剤を添加した後、カートリッジにインクを充填する間に再度高圧ホモジナイザーを通過させる方法も好ましい方法である。

高沸点有機溶媒に加えて低沸点有機溶媒を含む場合、乳化物の安定性及び安全衛生上の観点から低沸点溶媒を除去するのが好ましい。低沸点溶媒を除去する方法は溶媒の種類に応じて各種の公知の方法を用いることができる。即ち、蒸発法、真空蒸発法、限外濾過法等である。この低沸点有機溶剤の除去工程は乳化直後、できるだけ速やかに行うのが好ましい。

30

【0075】

本発明では以上の化合物のほかにインクジェット用記録インクとして用いる場合には、インクの噴射口での乾燥による目詰まりを防止するための乾燥防止剤、インクを紙により浸透させるための浸透促進剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、粘度調整剤、表面張力調整剤、分散剤、分散安定剤、防黴剤、防錆剤、pH調整剤、消泡剤、キレート剤等の添加剤を適宜選択して適量使用することができる。

【0076】

本発明に使用される乾燥防止剤としては水より蒸気圧の低い水溶性有機溶剤が好ましい。

40

具体的な例としてはエチレングリコール、プロピレングリコール、ジエチレングリコール、ポリエチレングリコール、チオジグリコール、ジチオジグリコール、2-メチルー1,3-プロパンジオール、1,2,6-ヘキサントリオール、アセチレングリコール誘導体、グリセリン、トリメチロールプロパン等に代表される多価アルコール類、エチレングリコールモノメチル（又はエチル）エーテル、ジエチレングリコールモノメチル（又はエチル）エーテル、トリエチレングリコールモノエチル（又はブチル）エーテル等の多価アルコールの低級アルキルエーテル類、2-ピロリドン、N-メチルー2-ピロリドン、1,3-ジメチルー2-イミダゾリジノン、N-エチルモルホリン等の複素環類、スルホラン、ジメチルスルホキシド、3-スルホレン等の含硫黄化合物、ジアセトンアルコール、

50

ジエタノールアミン等の多官能化合物、尿素誘導体が挙げられる。これらのうちグリセリン、ジエチレングリコール等の多価アルコールがより好ましい。また上記の乾燥防止剤は単独で用いても良いし2種以上併用しても良い。これらの乾燥防止剤はインク中に10～50質量%含有することが好ましい。

【0077】

本発明に使用される浸透促進剤としてはエタノール、イソプロパノール、ブタノール、ジエチレングリコールモノブチルエーテル、トリエチレングリコールモノブチルエーテル、1,2-ヘキサジオール等のアルコール類やラウリル硫酸ナトリウム、オレイン酸ナトリウムやノニオン性界面活性剤等も用いることができる。これらはインク中に10～30質量%含有すれば十分な効果があり、印字の滲み、紙抜け（プリントスルー）を起こさない添加量の範囲で使用するのが好ましい。

10

【0078】

本発明で画像の保存性を向上させるために使用される紫外線吸収剤としては特開昭58-185677号公報、同61-190537号公報、特開平2-782号公報、同5-197075号公報、同9-34057号公報等に記載されたベンゾトリアゾール系化合物、特開昭46-2784号公報、特開平5-194483号、米国特許第3214463号等に記載されたベンゾフェノン系化合物、特公昭48-30492号公報、同56-21141号公報、特開平10-88106号公報等に記載された桂皮酸系化合物、特開平4-298503号公報、同8-53427号公報、同8-239368号公報、同10-182621号公報、特表平8-501291号公報等に記載されたトリアジン系化合物、リサーチディスクロージャーNo. 24239号に記載された化合物やスチルベン系、ベンズオキサゾール系に代表される紫外線を吸収して蛍光を発する化合物、いわゆる蛍光増白剤も用いることができる。

20

【0079】

本発明で画像の保存性を向上させるために使用される酸化防止剤としては、各種の有機系及び金属錯体系の褪色防止剤を使用することができる。有機の褪色防止剤としてはヒドロキノン類、アルコキシフェノール類、ジアルコキシフェノール類、フェノール類、アニリン類、アミン類、インダン類、クロマン類、アルコキシアニリン類、ヘテロ環類などがあり、金属錯体としてはニッケル錯体、亜鉛錯体などがある。より具体的にはリサーチディスクロージャーNo. 17643の第V I IのIないしJ項、同No. 15162、同No. 18716の650頁左欄、同No. 36544の527頁、同No. 307105の872頁、同No. 15162に引用された特許に記載された化合物や特開昭62-215272号公報の127頁～137頁に記載された代表的化合物の一般式及び化合物例に含まれる化合物を使用することができる。

30

【0080】

本発明に使用される防黴剤としてはデヒドロ酢酸ナトリウム、安息香酸ナトリウム、ナトリウムピリジンチオン-1-オキシド、p-ヒドロキシ安息香酸エチルエステル、1,2-ベンズイソチアゾリン-3-オン及びその塩等が挙げられる。これらはインク中に0.02～5.00質量%使用するのが好ましい。なお、これらの詳細については「防菌防黴辞典」（日本防菌防黴学会辞典編集委員会編）等に記載されている。又、防錆剤としては例えば、酸性亜鉛硫酸塩、チオ硫酸ナトリウム、チオグリコール酸アンモン、ジイソプロピルアンモニウムニトライト、4硝酸ペンタエリスリトール、ジシクロヘキシルアンモニウムニトライト、ベンゾトリアゾール等が挙げられる。これらはインク中の0.02～5.00質量%使用するのが好ましい。

40

【0081】

本発明に使用されるpH調整剤はpH調節、分散安定性付与などの点で好適に使用することができ、25℃でのインクのpHが8～11に調整されているものである。pHが8未満である場合は染料の溶解性が低下してノズルが詰まりやすく、11を超えると耐水性が劣化する。pH調整剤としては、塩基性のものとして有機塩基、無機アルカリ等が、酸性のものとして有機酸、無機酸等が挙げられる。

50

前記有機塩基としてはトリエタノールアミン、ジエタノールアミン、N-メチルジエタノールアミン、ジメチルエタノールアミンなどが挙げられる。前記無機アルカリとしては、アルカリ金属の水酸化物（例えば、水酸化ナトリウム、水酸化リチウム、水酸化カリウムなど）、炭酸塩（例えば、炭酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウムなど）、アンモニウムなどが挙げられる。また、前記有機酸としては酢酸、プロピオン酸、トリフルオロ酢酸、アルキルスルホン酸などが挙げられる。前記無機酸としては、塩酸、硫酸、リン酸などが挙げられる。

【0082】

本発明で用いるインクの表面張力は25℃において20～50mN/m以下であることが好ましく、20～40mN/m以下であることが更に好ましい。この値とすることで、吐出安定性、印字品質が良好となる傾向にあり、吐出時のノズル周辺部へのインクの付着等による印字不良を防止し易くなる。

【0083】

本発明に用いられるインクの粘度は30mPa・s以下が好ましい。更に20mPa・s以下に調整することがより好ましいので、粘度を調整する目的で、粘度調整剤が使用されることがある。粘度調整剤としては、例えば、セルロース類、ポリビニルアルコールなどの水溶性ポリマーやノニオン系界面活性剤等が挙げられる。更に詳しくは、「粘度調整技術」（技術情報協会、1999年）第9章、及び「インクジェットプリンタ用ケミカルズ（98増補）－材料の開発動向・展望調査－」（シーエムシー、1997年）162～174頁に記載されている。

【0084】

更に本発明において、ポリマー微粒子分散物を用いることもできる。これらの詳細については特開2002-264490に記載されている。本発明では分散剤、分散安定剤として上述のカチオン、アニオン、ノニオン系の各種界面活性剤、消泡剤としてフッ素系、シリコン系化合物やEDTAに代表されるキレート剤等も必要に応じて使用することができる。

【0085】

本発明のインクは公知の被記録材、即ち普通紙、樹脂コート紙、例えば特開平8-169172号公報、同8-27693号公報、同2-276670号公報、同7-276789号公報、同9-323475号公報、特開昭62-238783号公報、特開平10-153989号公報、同10-217473号公報、同10-235995号公報、同10-337947号公報、同10-217597号公報、同10-337947号公報等に記載されているインクジェット専用紙、フィルム、電子写真共用紙、布帛、ガラス、金属、陶磁器等に画像を形成するのに用いることができる。

【0086】

以下に本発明のインクを用いてインクジェットプリントをするのに用いられる記録紙及び記録フィルムについて説明する。記録紙及び記録フィルムにおける支持体はLBKP、NBKP等の化学パルプ、GP、PGW、RMP、TMP、CTMP、CMP、CGP等の機械パルプ、DIP等の古紙パルプ等をからなり、必要に応じて従来の公知の顔料、バインダー、サイズ剤、定着剤、カチオン剤、紙力増強剤等の添加剤を混合し、長網抄紙機、円網抄紙機等の各種装置で製造されたもの等が使用可能である。これらの支持体の他に合成紙、プラスチックフィルムシートのいずれであってもよく、支持体の厚み10～250μm、坪量は10～250g/m²が望ましい。支持体には、そのままインク受容層及びバックコート層を設けてもよいし、デンプン、ポリビニルアルコール等でサイズプレスやアンカーコート層を設けた後、インク受容層及びバックコート層を設けてもよい。更に支持体には、マシンカレンダー、TGカレンダー、ソフトカレンダー等のカレンダー装置により平坦化処理を行ってもよい。本発明では支持体としては、両面をポリオレフィン（例、ポリエチレン、ポリスチレン、ポリエチレンテレフタレート、ポリブテン及びそれらのコポリマー）でラミネートした紙及びプラスチックフィルムがより好ましく用いられる。ポリオレフィンポリオレフィン中に、白色顔料（例、酸化チタン、酸化亜鉛）又は色味付

け色素（例、コバルトブルー、群青、酸化ネオジウム）を添加することが好ましい。

【0087】

支持体上に設けられるインキ受容層には、顔料や水性バインダーが含有される。顔料としては、白色顔料がよく、白色顔料としては、炭酸カルシウム、カオリン、タルク、クレー、珪藻土、合成非晶質シリカ、珪酸アルミニウム、珪酸マグネシウム、珪酸カルシウム、水酸化アルミニウム、アルミナ、リトポン、ゼオライト、硫酸バリウム、硫酸カルシウム、二酸化チタン、硫化亜鉛、炭酸亜鉛等の無機白色顔料、スチレン系ピグメント、アクリル系ピグメント、尿素樹脂、メラミン樹脂等の有機顔料等が挙げられる。インク受容層に含有される白色顔料としては、多孔性無機顔料がよく、特に細孔面積が大きい合成非晶質シリカ等が好適である。合成非晶質シリカは、乾式製造法（気相法）によって得られる無水珪酸及び湿式製造法によって得られる含水珪酸のいずれも使用可能であるが、特に含水珪酸を使用することが望ましい。これらの顔料は2種以上を併用しても良い。

10

【0088】

上記顔料を受像層に含有する記録紙としては、具体的には、特開平10-81064号、同10-119423号、同10-157277号、同10-217601号、同10-348409号、特開2001-138621号、同2000-43401号、同2000-211235号、同2000-309157号、同2001-96897号、同2001-138627号、特開平11-91242号、同8-2087号、同8-2090号、同8-2091号、同8-2093号、同8-174992号、同11-192777号、特開2001-301314号などに開示されたものを用いることができる。

20

【0089】

インク受容層に含有される水性バインダーとしては、ポリビニルアルコール、シラノール変性ポリビニルアルコール、デンプン、カチオン化デンプン、カゼイン、ゼラチン、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ポリビニルピロリドン、ポリアルキレンオキサイド、ポリアルキレンオキサイド誘導体等の水溶性高分子、スチレンブタジエンラテックス、アクリルエマルジョン等の水分散性高分子等が挙げられる。これらの水性バインダーは単独又は2種以上併用して用いることができる。本発明においては、これらの中でも特にポリビニルアルコール、シラノール変性ポリビニルアルコールが顔料に対する付着性、インク受容層の耐剥離性の点で好適である。インク受容層は、顔料及び水性結着剤の他に媒染剤、耐水化剤、耐光性向上剤、耐オゾン性向上剤、界面活性剤、その他の添加剤を含有することができる。

30

【0090】

インク受容層中に添加する媒染剤は、不動化されていることが好ましい。そのためには、ポリマー媒染剤が好ましく用いられる。ポリマー媒染剤については、特開昭48-28325号、同54-74430号、同54-124726号、同55-22766号、同55-142339号、同60-23850号、同60-23851号、同60-23852号、同60-23853号、同60-57836号、同60-60643号、同60-118834号、同60-122940号、同60-122941号、同60-122942号、同60-235134号、特開平1-161236号の各公報、米国特許2484430号、同2548564号、同3148061号、同3309690号、同4115124号、同4124386号、同4193800号、同4273853号、同4282305号、同4450224号の各明細書に記載がある。特開平1-161236号公報の212～215頁に記載のポリマー媒染剤を含有する受像材料が特に好ましい。同公報記載のポリマー媒染剤を用いると、優れた画質の画像が得られ、かつ画像の耐光性が改善される。

40

【0091】

耐水化剤は、画像の耐水化に有効であり、これらの耐水化剤としては、特にカチオン樹脂が望ましい。このようなカチオン樹脂としては、ポリアミドポリアミンエピクロルヒドリン、ポリエチレンイミン、ポリアミンスルホン、ジメチルジアリルアンモニウムクロライド重合体、カチオンポリアクリルアミド等が挙げられる。これらのカチオン樹脂の含有

50

量は、インク受容層の全固形分に対して1～15質量%が好ましく、特に3～10質量%であることが好ましい。

【0092】

耐光性向上剤、耐ガス性向上剤としては、フェノール化合物、ヒンダードフェノール化合物、チオエーテル化合物、チオ尿素化合物、チオシアン酸化合物、アミン化合物、ヒンダードアミン化合物、TEMP O化合物、ヒドラジン化合物、ヒドラジド化合物、アミジン化合物、ビニル基含有化合物、エステル化合物、アミド化合物、エーテル化合物、アルコール化合物、スルフィン酸化合物、糖類、水溶性還元性化合物、有機酸、無機酸、ヒドロキシ基含有有機酸、ベンゾトリアゾール化合物、ベンゾフェノン化合物、トリアジン化合物、ヘテロ環化合物、水溶性金属塩、有機金属化合物、金属錯体等が挙げられる。これらの具体的な化合物例としては、特開平10-182621号、特開2001-260519号、特開2000-260519号、特公平4-34953号、特公平4-34513号、特公平4-34512号、特開平11-170686号、特開昭60-67190号、特開平7-276808号、特開2000-94829号、特表平8-512258号、特開平11-321090号等に記載のものが挙げられる。

10

【0093】

界面活性剤は、塗布助剤、剥離性改良剤、スベリ性改良剤あるいは帯電防止剤として機能する。界面活性剤については、特開昭62-173463号、同62-183457号の各公報に記載がある。

界面活性剤の代わりに有機フルオロ化合物を用いてもよい。有機フルオロ化合物は、疎水性であることが好ましい。有機フルオロ化合物の例には、フッ素系界面活性剤、オイル状フッ素系化合物（例、フッ素油）及び固体状フッ素化合物樹脂（例、四フッ化エチレン樹脂）が含まれる。有機フルオロ化合物については、特公昭57-9053号（第8～17欄）、特開昭61-20994号、同62-135826号の各公報に記載がある。

20

【0094】

硬膜剤としては特開平1-161236号公報の222頁、特開平9-263036号、特開平10-119423号、特開2001-310547号、に記載されている材料等を用いることが出来る。

【0095】

その他のインク受容層に添加される添加剤としては、顔料分散剤、増粘剤、消泡剤、染料、蛍光増白剤、防腐剤、pH調整剤、マット剤、硬膜剤等が挙げられる。なお、インク受容層は1層でも2層でもよい。

30

【0096】

記録紙及び記録フィルムには、バックコート層を設けることもでき、この層に添加可能な成分としては、白色顔料、水性結着剤、その他の成分が挙げられる。バックコート層に含有される白色顔料としては、例えば、軽質炭酸カルシウム、重質炭酸カルシウム、カオリン、タルク、硫酸カルシウム、硫酸バリウム、二酸化チタン、酸化亜鉛、硫化亜鉛、炭酸亜鉛、サチンホワイト、珪酸アルミニウム、ケイソウ土、珪酸カルシウム、珪酸マグネシウム、合成非晶質シリカ、コロイダルシリカ、コロイダルアルミナ、擬ベーマイト、水酸化アルミニウム、アルミナ、リトポン、ゼオライト、加水ハロイサイト、炭酸マグネシウム、水酸化マグネシウム等の白色無機顔料、スチレン系プラスチックピグメント、アクリル系プラスチックピグメント、ポリエチレン、マイクロカプセル、尿素樹脂、メラミン樹脂等の有機顔料等が挙げられる。

40

【0097】

バックコート層に含有される水性バインダーとしては、スチレン/マレイン酸塩共重合体、スチレン/アクリル酸塩共重合体、ポリビニルアルコール、シラノール変性ポリビニルアルコール、デンプン、カチオン化デンプン、カゼイン、ゼラチン、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ポリビニルピロリドン等の水溶性高分子、スチレンブタジエンラテックス、アクリルエマルジョン等の水分散性高分子等が挙げられる。バックコート層に含有されるその他の成分としては、消泡剤、抑泡剤、染料、蛍光増白

50

剤、防腐剤、耐水化剤等が挙げられる。

【0098】

インクジェット記録紙及び記録フィルムの構成層（バック層を含む）には、ポリマーラテックスを添加してもよい。ポリマーラテックスは、寸度安定化、カール防止、接着防止、膜のひび割れ防止のような膜物性改良の目的で使用される。ポリマーラテックスについては、特開昭62-245258号、同62-1316648号、同62-110066号の各公報に記載がある。ガラス転移温度が低い（40℃以下の）ポリマーラテックスを媒染剤を含む層に添加すると、層のひび割れやカールを防止することができる。また、ガラス転移温度が高いポリマーラテックスをバック層に添加しても、カールを防止できる。

【0099】

本発明は、本発明に係るインクジェット記録用インクを用いるインクジェット記録方法にも関する。

本発明のインクはインクジェットの記録方式に制限はなく、公知の方式例えば静電誘引力を利用してインクを吐出させる電荷制御方式、ピエゾ素子の振動圧力を利用するドロップオンデマンド方式（圧力パルス方式）、電気信号を音響ビームに変えインクに照射して放射圧を利用してインクを吐出させる音響インクジェット方式、及びインクを加熱して気泡を形成し、生じた圧力を利用するサーマルインクジェット方式等に用いられる。

インクジェット記録方式には、フォトインクと称する濃度の低いインクを小さい体積で多数射出する方式、実質的に同じ色相で濃度の異なる複数のインクを用いて画質を改良する方式や無色透明のインクを用いる方式が含まれる。

好ましい被記録材と記録方式の組み合わせは、支持体上に白色無機顔料粒子を含有する受像層を有する受像材料にインク滴を記録信号に応じて吐出させ、受像材料上に画像を記録するインクジェット記録方法である。

【0100】

本発明のインクジェット記録用インクは、インクジェット記録以外の用途に使用することもできる。例えば、ディスプレイ画像用材料、室内装飾材料の画像形成材料及び屋外装飾材料の画像形成材料などに使用が可能である。

【0101】

ディスプレイ画像用材料としては、ポスター、壁紙、装飾小物（置物や人形など）、商業宣伝用チラシ、包装紙、ラッピング材料、紙袋、ビニール袋、パッケージ材料、看板、交通機関（自動車、バス、電車など）の側面に描画や添付した画像、ロゴ入りの洋服、等各種の物を指す。本発明の染料をディスプレイ画像の形成材料とする場合、その画像とは狭義の画像の他、抽象的なデザイン、文字、幾何学的なパターンなど、人間が認知可能な染料によるパターンをすべて含む。

【0102】

室内装飾材料としては、壁紙、装飾小物（置物や人形など）、照明器具の部材、家具の部材、床や天井のデザイン部材等各種の物を指す。本発明の染料を画像形成材料とする場合、その画像とは狭義の画像の他、抽象的なデザイン、文字、幾何学的なパターンなど、人間が認知可能な染料によるパターンをすべて含む。

【0103】

屋外装飾材料としては、壁材、ルーフィング材、看板、ガーデニング材料屋外装飾小物（置物や人形など）、屋外照明器具の部材等各種の物を指す。本発明の染料を画像形成材料とする場合、その画像とは狭義の画像ののみならず、抽象的なデザイン、文字、幾何学的なパターンなど、人間が認知可能な染料によるパターンをすべて含む。

【0104】

以上のような用途において、パターンが形成されるメディアとしては、紙、繊維、布（不織布も含む）、プラスチック、金属、セラミックス等種々の物を挙げることができる。染色形態としては、媒染、捺染、若しくは反応性基を導入した反応性染料の形で色素を固定化することもできる。この中で、好ましくは媒染形態で染色されることが好ましい。

【実施例】

【0105】

以下、本発明を実施例によって説明するが、本発明はこれに限定されるものではない。

【0106】

(合成例)

以下、実施例に本発明の染料混合物の合成法を詳しく説明するが、本発明はこれらの実施例に何ら限定されるものではない。

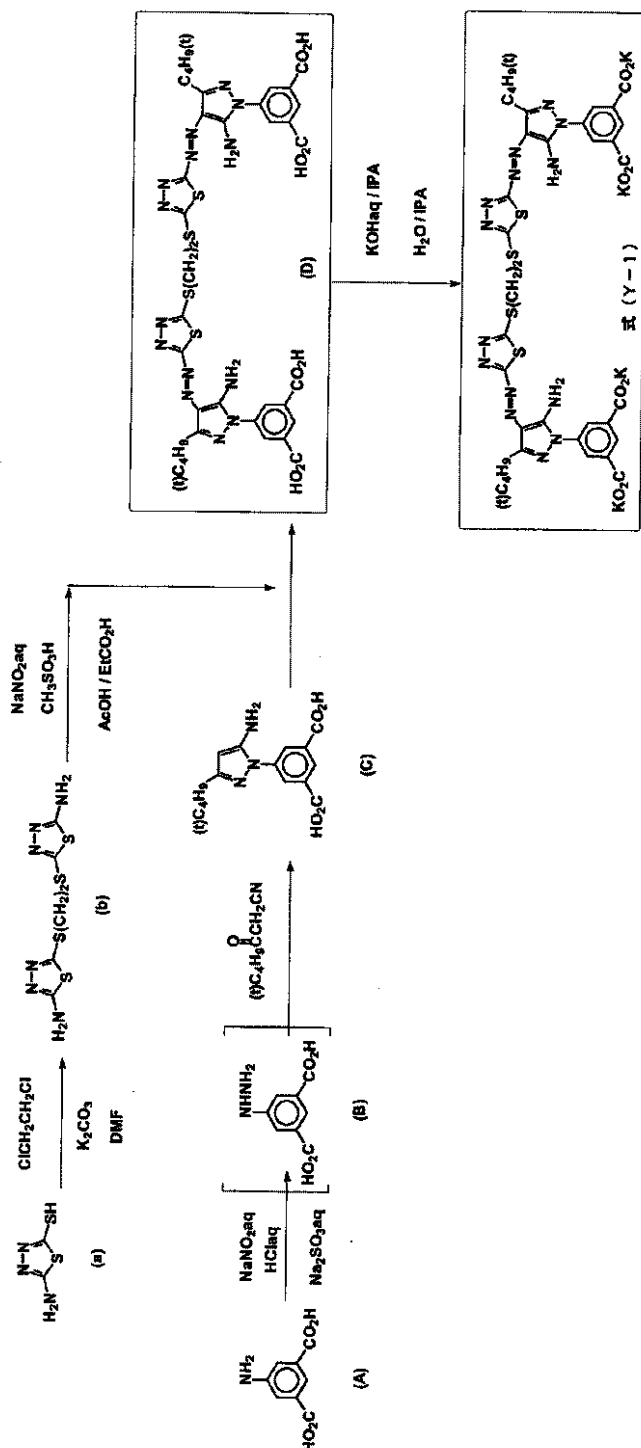
【0107】

本発明の式(Y-1)で表される染料は、例えば下記合成ルートから誘導することができる。

以下の実施例において、 λ_{max} は吸収極大波長であり、 ϵ_{max} は吸収極大波長におけるモル吸光係数を意味する。また、単に%と記載しているものは質量%を表す。

【0108】

【化 6】



【0109】

(合成例 1)

DMF (N, N-ジメチルホルムアミド) 450 mL と 1, 2-ジクロロエタン 24.75 g 中に、室温で化合物 (a) (2-アミノ-5-メルカプト-1, 3, 4-チアゾール (和光純薬工業 (株) 製 / カタログ番号 019-11125)) 76.5 g を加え、炭酸カリウム 79.5 g を添加後に 70℃ まで昇温して同温度で 30 分間攪拌した。引き続き、80℃ の温水 375 mL を上記反応液中に 10 分間かけて滴下し、内温 25℃ まで冷却した。析出した結晶をろ別し、イオン交換水 250 mL、引き続きメタノール 150 mL で洗浄後 70℃ にて一晩乾燥して化合物 (b) 65.1 g を得た。

【0110】

(合成例 2)

アミノイソフタル酸（（和光純薬工業（株）製／カタログ番号 322-26175））
（A）181.2 g をイオン交換水 1000 mL に懸濁後、濃塩酸 257 mL を添加し、氷浴で 5℃ に保った。そこへ亜硝酸ナトリウム 69.7 g の水溶液 116 mL を滴下した（反応液 A）。亜硫酸ナトリウム 378.1 g の水溶液 1300 mL を内温 25℃ で攪拌し、そこへ上記反応液 A を注入した。この状態で 30 分攪拌した後、内温を 30℃ まで加熱して、60 分攪拌した。この反応液に塩酸 500 mL を添加し、すぐに内温 50℃ まで昇温した（反応液 B）。この状態で 90 分攪拌した後に、ピバロイルアセトニトリル（東京化成（株）製／カタログ番号 P1112）125.2 g とイソプロパノール 100 mL を上記反応液 B に添加後、内温を 93℃ まで昇温し、240 分間攪拌した。室温まで冷却後、析出した結晶（C）を吸引濾過し、結晶をイオン交換水 1500 mL、続いてイソプロパノール 1000 mL で洗浄後乾燥した。単離収率 223.5 g。収率 73.7%。

10

【0111】

（合成例 3）

メタンスルホン酸 100 mL、酢酸 120 mL、プロピオン酸 180 mL 中に、室温で化合物（b）29.2 g を添加し、内温を 45℃ まで昇温して均一溶液にした後に内温 0℃ まで冷却した。引き続き、 NaNO_2 14.7 g とイオン交換水 27 mL の溶液を上記均一溶液中に内温 0～10℃ を保ちながら滴下し、内温 5℃ で 15 分間攪拌して、ジアゾニウム塩を調製した。合成例 2 で作成したカプラー成分（C）60.6 g、メタノール 600 mL、エチレングリコール 600 mL から予め作成した溶液に、内温 0～10℃ を保つ速度で上記ジアゾニウム塩溶液を滴下した。引き続き、内温 25℃ で 30 分間攪拌した。析出した結晶をろ過し、メタノール 250 mL で洗浄後、粗結晶を 650 mL の水に分散し、その後内温 80℃ で 30 分間攪拌後室温まで冷却し、ろ過、水 300 mL で洗浄後、60℃ で一晩乾燥して、64.47 g の色素（D）を得た。

20

【0112】

（合成例 4）

予め調製した KOH（錠剤）16.5 g とイオン交換水 414.9 mL の溶液中に、内温 20～30℃ で上記合成例 3 で作成した色素（D）46.1 g を添加して溶解した。

引き続き、酢酸カリウム 40.0 g とメタノール 200 mL の溶液を上記色素水溶液中に内温 25℃ で滴下し、引き続き同温で 10 分間攪拌した。その後、IPA（イソプロパノール）2488 mL を滴下して造塩し、同温度で 30 分間攪拌後にろ過、IPA 500 mL で洗浄、70℃ で一晩乾燥して、44 g の式（Y-1）で表される水溶性染料の粗結晶を得た。

30

【0113】

（合成例 5）

イオン交換水 78.3 mL に式（Y-1）で表される水溶性染料の粗結晶 8.7 g を室温で溶解後、0.1 N 塩酸を用いて水溶液の pH 値を 8.5 に調整し、0.2 μm のメンブランフィルターでろ過後、ろ液中に IPA 391.5 mL を内温 25℃ で滴下した。析出した結晶をろ過、IPA 100 mL で洗浄後、80℃ で一晩乾燥して、7.8 g の式（Y-1）で表される水溶性染料の精結晶を得た。{ λ_{max} : 428 nm (H_2O)、 ϵ_{max} : 4.20×10^4 }

40

【0114】

（合成例 6）

合成例 4 の KOH を NaOH に、酢酸カリウムを酢酸ナトリウムに変更した以外は、合成例 4 及び合成例 5 と同様の操作を行い、7.7 g の水溶性染料（Y-2：一般式（Y）中の $\text{M} = \text{Na}^+$ ）の精結晶を得た。

【0115】

（合成例 7）

合成例 4 の KOH を LiOH に、酢酸カリウムを酢酸リチウムに変更した以外は、合成例 4 及び合成例 5 と同様の操作を行い、7.4 g の水溶性染料（Y-3：一般式（Y）中の $\text{M} = \text{Li}^+$ ）の精結晶を得た。

50

【0116】

(合成例8)

合成例4のKOHを NH_4OH に、酢酸カリウムを酢酸アンモニウムに変更した以外は、合成例4及び合成例5と同様の操作を行い、7.3gの水溶性染料(Y-4:一般式(Y)中の $\text{M}=\text{NH}_4^+$)の精結晶を得た。

【0117】

〔インク原液の調製〕 上記合成例5で得られた色材1である水溶性染料(Y-1)、及び、色材2として群A中の1($\text{M}=\text{K}^+$ イオン)/2($\text{M}=\text{K}^+$ イオン)/3($\text{M}=\text{K}^+$ イオン)/8($\text{M}=\text{K}^+$ イオン)=1/3/1/2(質量比)を下記表3に示した質量比率で含む混合物100gを超純水900gに室温で攪拌しながらこれらを完全に混合溶解した。引き続き、平均孔径0.2 μm のメンブランフィルターを用いて不溶物のろ過を行い、インク原液1を得た。

10

【0118】

色材1、色材2、及び調液に使用する水の種類を変更し、また、染料の精製の有無を変更した以外はインク原液1の調整と同様にして、インク原液2～6、101及び102をそれぞれ作製した。

【0119】

【表 3】

表 3

インク原液	色材 1		色材 2		色材2／色材1 (質量比率)	水
1	(Y-1) (M=K ⁺ イオン)	精製品	群 A 中の 1/2/3/8=1/3/1/2 (M=K ⁺ イオン)	精製品	0.10	超純水
2	(Y-1) (M=K ⁺ イオン)	精製品	群 A 中の 1/2/3/8=1/3/1/2 (M=K ⁺ イオン)	精製品	0.10	イオン交換水
3	(Y-1) (M=K ⁺ イオン)	精製品	群 A 中の 1/2/3/8=1/3/1/2 (M=K ⁺ イオン)	精製品	0.10	硬水
4	(Y-2) (M=Na ⁺ イオン)	精製品	群 A 中の 1/2/3/8=1/3/1/2 (M=K ⁺ イオン)	精製品	0.10	イオン交換水
5	(Y-3) (M=Li ⁺ イオン)	精製品	群 A 中の 1/2/3/8=1/3/1/2 (M=K ⁺ イオン)	精製品	0.10	イオン交換水
6	(Y-4) (M=NH ₄ ⁺ イオン)	精製品	群 A 中の 1/2/3/8=1/3/1/2 (M=K ⁺ イオン)	精製品	0.10	イオン交換水
101	(Y-1) (M=K ⁺ イオン)	精製品	群 A 中の 1/2/3/8=1/3/1/2 (M=K ⁺ イオン)	精製品	0.10	未精製
102	(Y-1) (M=K ⁺ イオン)	未精製	群 A 中の 1/2/3/8=1/3/1/2 (M=K ⁺ イオン)	未精製	0.10	未精製

【0120】

<実施例 1～22、比較例 1 及び 2>

〔インク液の調製〕

上記で得られたインク原液 1～6 及び 101～102 を用い、以下に記載の成分に超純水を加え 1000 g とした後、30～40℃で加熱しながら 1 時間攪拌溶解した。その後、平均孔径 0.25 μm のマイクロフィルターで減圧ろ過しイエローインク液 1～22 及び 101～102 をそれぞれ調整した。

イエローインク液 1～22 及び 101～102 の重金属イオン濃度を原子吸光法によって測定したところ、表 4～6 に記載のイオンが検出された。他にも微量の遷移金属イオンが検出され、遷移金属イオンの総和は表 4～6 に記載の量となった。

【0121】

〔インク液の組成〕

【0122】

【表 4】

表 4

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5	実施例 6	比較例 1	比較例 2
	インク液 1	インク液 2	インク液 3	インク液 4	インク液 5	インク液 6	インク液 101	インク液 102
インク原液	インク原液 1 500g	インク原液 2 500g	インク原液 3 500g	インク原液 4 500g	インク原液 5 500g	インク原液 6 500g	インク原液 101 500g	インク原液 102 500g
グリセリン	90g	90g	90g	90g	90g	90g	90g	90g
ジエチレングリコール	100g	100g	100g	100g	100g	100g	100g	100g
2-ピロリドン	60g	60g	60g	60g	60g	60g	60g	60g
オレフィン E1010* (日信化学工業(株)製)	10g	10g	10g	10g	10g	10g	10g	10g
遷移金属	鉄イオン 0.00015 (mmol)	鉄イオン 0.0038 (mmol)	鉄イオン 0.054 (mmol)	鉄イオン 0.0037 (mmol)	鉄イオン 0.0038 (mmol)	鉄イオン 0.0037 (mmol)	鉄イオン 0.12 (mmol)	鉄イオン 0.32 (mmol)

【0123】

【表 5】

表 5

	実施例 7	実施例 8	実施例 9	実施例 10	実施例 11	実施例 12	実施例 13	実施例 14
	インク液 7	インク液 8	インク液 9	インク液 10	インク液 11	インク液 12	インク液 13	インク液 14
インク原液	インク原液 1 500g	インク原液 2 500g	インク原液 3 500g	インク原液 4 500g	インク原液 5 500g	インク原液 6 500g	インク原液 1 500g	インク原液 1 500g
グリセリン	90g	90g	90g	90g	90g	90g	90g	90g
ジエチレングリコール	100g	100g	100g	100g	100g	100g	100g	100g
2-ピロリドン	60g	60g	60g	60g	60g	60g	60g	60g
オレフィン E1010* (日信化学工業(株)製)	10g	10g	10g	10g	10g	10g	10g	10g
防腐剤	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II /フェノキシ エタノール= 4.5g/4.5g	プロキセル XL-II /ベンチリン グリコール= 4.5g/4.5g
遷移金属	鉄イオン 0.0136 (mmol)	鉄イオン 0.0264 (mmol)	鉄イオン 0.0762 (mmol)	鉄イオン 0.0263 (mmol)	鉄イオン 0.0264 (mmol)	鉄イオン 0.0262 (mmol)	鉄イオン 0.0145 (mmol)	鉄イオン 0.0144 (mmol)

【0124】

【表 6】

表 6

	実施例 15	実施例 16	実施例 17	実施例 18	実施例 19	実施例 20	実施例 21	実施例 22
	インク液 15	インク液 16	インク液 17	インク液 18	インク液 19	インク液 20	インク液 21	インク液 22
インク原液	インク原液 1 500g	インク原液 2 500g	インク原液 3 500g	インク原液 4 500g	インク原液 5 500g	インク原液 6 500g	インク原液 1 500g	インク原液 1 500g
グリセリン	90g	90g	90g	90g	90g	90g	90g	90g
ジエチレングリコール	100g	100g	100g	100g	100g	100g	100g	100g
2-ヒドロキシ	60g	60g	60g	60g	60g	60g	60g	60g
エチレングリコール	50g	50g	50g	50g	50g	50g	50g	50g
ポリビニルピロリドン (日信化学工業(株)製)	10g	10g	10g	10g	10g	10g	10g	10g
防腐剤	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II 9g	プロキセル XL-II /フエノキシ エタノール= 4.5g/4.5g	プロキセル XL-II /ベンチレン グリコール= 4.5g/4.5g
遷移金属	鉄イオン 0.0257 (mmol)	鉄イオン 0.0383 (mmol)	鉄イオン 0.0882 (mmol)	鉄イオン 0.0382 (mmol)	鉄イオン 0.0383 (mmol)	鉄イオン 0.0382 (mmol)	鉄イオン 0.0267 (mmol)	鉄イオン 0.0274 (mmol)

【0125】

*アセチレングリコール系界面活性剤

プロキセル XL-II (1, 2-ベンズイソチアゾリン-3-オン、AVECIA 製)

【0126】

(画像記録及び評価)

以上の本発明(インク液1~22)及び比較例(インク液101~102)のインクジェット用インクについて、下記評価を行った。その結果を表7に示した。

なお、表7において、「にじみ」、「色移り」、「色相」、「色濃度」及び「画像の保存安定性」は、各インクジェット用インクを、インクジェットプリンター(商品名:PIXUS iP8600; キヤノン製)でキヤノン社製 フォト光沢フィルム HG201 に画像を記録した後で評価したものである。

【0127】

<画像のにじみ及び色移りの評価>

前記画像を形成したフォト光沢紙を、1時間室温乾燥した後、10秒間脱イオン水に浸漬し、室温にて自然乾燥させ、滲みを観察した。滲みが少ないものをA、滲みが中程度のものをB、滲みが多いものをCとして、三段階で評価した。

また色移りを、連続6枚画像を記録し集積部に集積させ、全記録が終了後、記録紙の記録面に重なっていた記録紙裏面の色移りを観察した。色移りが無いものを○、1枚でも色移りがあるものを×で評価した。

【0128】

<画像品質評価(色調)>

上記で得られた各インクをそれぞれ、熱エネルギーを利用したインクジェット記録装置（商品名：PIXUS i P 8 6 0 0；キヤノン製）に搭載した。記録条件を、温度 23℃、相対湿度 55%、記録密度 2, 400 dpi × 1, 200 dpi、吐出量 2.5 pL とした。そして、上記と同様の記録媒体に記録デューティを 60%とした画像を形成して、画像を温度 23℃、相対湿度 55%で 24時間自然乾燥した。このようにして得られた記録物の画像の部分について、分光光度計（Spectrolino；Gretag Macbeth製）を用いて色相角を測定し、色調の評価を行った。色調の評価基準は以下の通りである。評価結果を表 7 に示した。本発明においては、下記の評価基準で A A、A 及び B を許容できるレベル、C を許容できないレベルとした。

A A：色相角が 88°以上 90°以下。

10

A：色相角が 85°以上 88°未満、又は 90°より大きく 92°以下。

B：色相角が 83°以上 85°未満、又は 92°より大きく 94°以下。

C：色相角が 83°未満、又は 94°より大きい。

【0129】

<画像の保存安定性評価>

画像の保存安定性については、イエローのベタ画像印字サンプルを作成し、以下の評価を行った。（1）光堅牢性は印字直後の画像濃度 C_i を反射濃度計（X-Rite 310 TR）にて測定した後、アトラス社製ウェザーメーターを用い画像にキセノン光（8万5千ルクス）を10日照射した後、再び画像濃度 C_f を測定し染料残存率（ $100 \times C_f / C_i$ ）を求め評価を行った。染料残像率について反射濃度が 1、1.5 及び 2 の3点にて評価し、いずれの濃度でも染料残存率が 70%以上の場合を A、2点 が 70%未満の場合を B、全ての濃度で 70%未満の場合を C とした。（2）熱堅牢性については、80℃ 15% RH の条件下に 10日間、試料を保存する前後での濃度を、反射濃度計（X-Rite 310 TR）にて測定し染料残存率を求め評価した。染料残像率について反射濃度が 1、1.5、2 の3点にて評価し、いずれの濃度でも染料残存率が 90%以上の場合を A、2点 が 90%未満の場合を B、全ての濃度で 90%未満の場合を C とした。

20

【0130】

何れの濃度でも色素残存率が 80%以上の場合を A、1 又は 2 点 が 80%未満を B、全ての濃度で 70%未満の場合を C とし、三段階で評価した。

【0131】

30

<ブロンズ現象>

ブロンズ現象発生の有無については、記録した直後の画像を 24時間乾燥させた後で、目視にて観察して評価した。ブロンズ光沢が全く確認できなかったものを○、僅かながらブロンズ光沢が確認されたものを△、明らかにブロンズ光沢が確認されたものを×とした。なお、ブロンズ現象が発生すると印字濃度はブロンズ現象がない場合よりも低くなることによっても確認できる。

【0132】

以上で得られた結果を表 7 に示す。

【0133】

【表 7】

表 7

		にじみ	色移り	画像品質 色調	保存安定性		ブロンズ現象
					画像の 光堅牢性	画像の 熱堅牢性	
実施例 1	インク液 1	B	○	A	A	A	○
実施例 2	インク液 2	A	○	A	A	A	○
実施例 3	インク液 3	A	○	A A	A	A	○
実施例 4	インク液 4	A	○	A	A	A	○
実施例 5	インク液 5	A	○	A A	A	A	○
実施例 6	インク液 6	A	○	A A	A	A	○
実施例 7	インク液 7	A	○	A	A	A	○
実施例 8	インク液 8	A	○	A	A	A	○
実施例 9	インク液 9	A	○	A A	A	A	○
実施例 10	インク液 10	A	○	A A	A	A	○
実施例 11	インク液 11	A	○	A A	A	A	○
実施例 12	インク液 12	A	○	A A	A	A	○
実施例 13	インク液 13	A	○	A A	A	A	○
実施例 14	インク液 14	A	○	A A	A	A	○
実施例 15	インク液 15	A	○	A A	A	A	○
実施例 16	インク液 16	A	○	A A	A	A	○
実施例 17	インク液 17	A	○	A A	A	A	○
実施例 18	インク液 18	A	○	A A	A	A	○
実施例 19	インク液 19	A	○	A A	A	A	○
実施例 20	インク液 20	A	○	A A	A	A	○
実施例 21	インク液 21	A	○	A A	A	A	○
実施例 22	インク液 22	A	○	A A	A	A	○
比較例 1	インク液 101	B	×	C	C	C	×
比較例 2	インク液 102	B	×	C	C	C	×

10

20

30

【0134】

<実施例 23～29>

インク原液 1 中における色材 1 及び色材 2 の種類及び量を、下記表 8 に示すように変更した以外は、インク液 1 と同様にインク組成物を調製した。

また、インク組成物中における第 1 の色材の含有量（質量％）に対する第 2 の色材の含有量（質量％）の質量比率（〔群 A から選択される少なくとも 1 種の化合物の含有量〕／〔一般式（Y）、又は式（Y-1）の化合物の含有量〕）を「色材 2／色材 1」として下記表 8 に示した。

これらインク組成物をインク液 1 と同様に評価した結果を表 9 に示した。

【0135】

40

【表 8】

表 8 インク組成

単位 (%)

	インク液						
	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9
色材 1 (Y-1)	2.625	2.250	2.814	2.622	2.811	2.631	2.625
色材 1 (Y-2)	—	—	—	—	—	—	—
色材 1 (Y-3)	—	—	—	—	—	—	—
色材 1 (Y-4)	—	—	—	—	—	—	—
色材 2 (群 A 中の 1 ; M=K ⁺ イオン)	0.0536	0.1072	0.0109	0.0525	0.0105	0.056	0.048
色材 2 (群 A 中の 2 ; M=K ⁺ イオン)	0.1608	0.3216	0.109	0.1575	0.105	0.168	0.144
色材 2 (群 A 中の 3 ; M=K ⁺ イオン)	0.0536	0.1072	0.0109	0.0525	0.0105	0.0112	0.048
色材 2 (群 A 中の 4 ; M=K ⁺ イオン)	—	—	—	—	—	—	0.0096
色材 2 (群 A 中の 5 ; M=K ⁺ イオン)	—	—	—	—	—	0.0112	0.0096
色材 2 (群 A 中の 6 ; M=K ⁺ イオン)	—	—	—	0.0105	0.0105	0.0112	0.0096
色材 2 (群 A 中の 7 ; M=K ⁺ イオン)	—	—	—	—	—	—	0.0096
色材 2 (群 A 中の 8 ; M=K ⁺ イオン)	0.1072	0.2144	0.0545	0.105	0.0525	0.112	0.096
色材 2 / 色材 1	0.143	0.334	0.066	0.144	0.067	0.140	0.143

*界面活性剤 (川研ファインケミカル製)

【0136】

【表 9】

表 9 : 評価結果

		にじみ	色移り	画像品質 色調	保存安定性		ブロンズ 現象
					画像の 光堅牢性	画像の 熱堅牢性	
実施例 2 3	インク液 2 3	B	○	A	A	A	○
実施例 2 4	インク液 2 4	A	○	A	A	A	○
実施例 2 5	インク液 2 5	A	○	AA	A	A	○
実施例 2 6	インク液 2 6	A	○	A	A	A	○
実施例 2 7	インク液 2 7	A	○	AA	A	A	○
実施例 2 8	インク液 2 8	A	○	AA	A	A	○
実施例 2 9	インク液 2 9	A	○	A	A	A	○

【0137】

表 7 及び 9 に示される結果より、本発明のインク組成物をインクジェット記録に用いた場合、比較例に比べ、受像紙へのインクの浸透性を向上させ、インク滲み及び色移りを防止することができる。また、印画物の金属様光沢、いわゆるブロンズ現象を高いレベルで改良し、保存安定性に優れることが分かる。

なお、本発明において使用する受像紙を EPSON 社製 PM 写真用紙、キャノン社製 PR101 に変更した場合でも上記結果と同様の効果が見られる。

フロントページの続き

Fターム(参考) 2H186 BA11 DA12 FA13 FB11 FB16 FB17 FB25 FB29 FB30 FB31
FB53
4J039 BC07 BC11 BC28 BC36 BC51 BC55 BE02 BE06 BE12 CA03
EA42 EA44 EA46 GA24